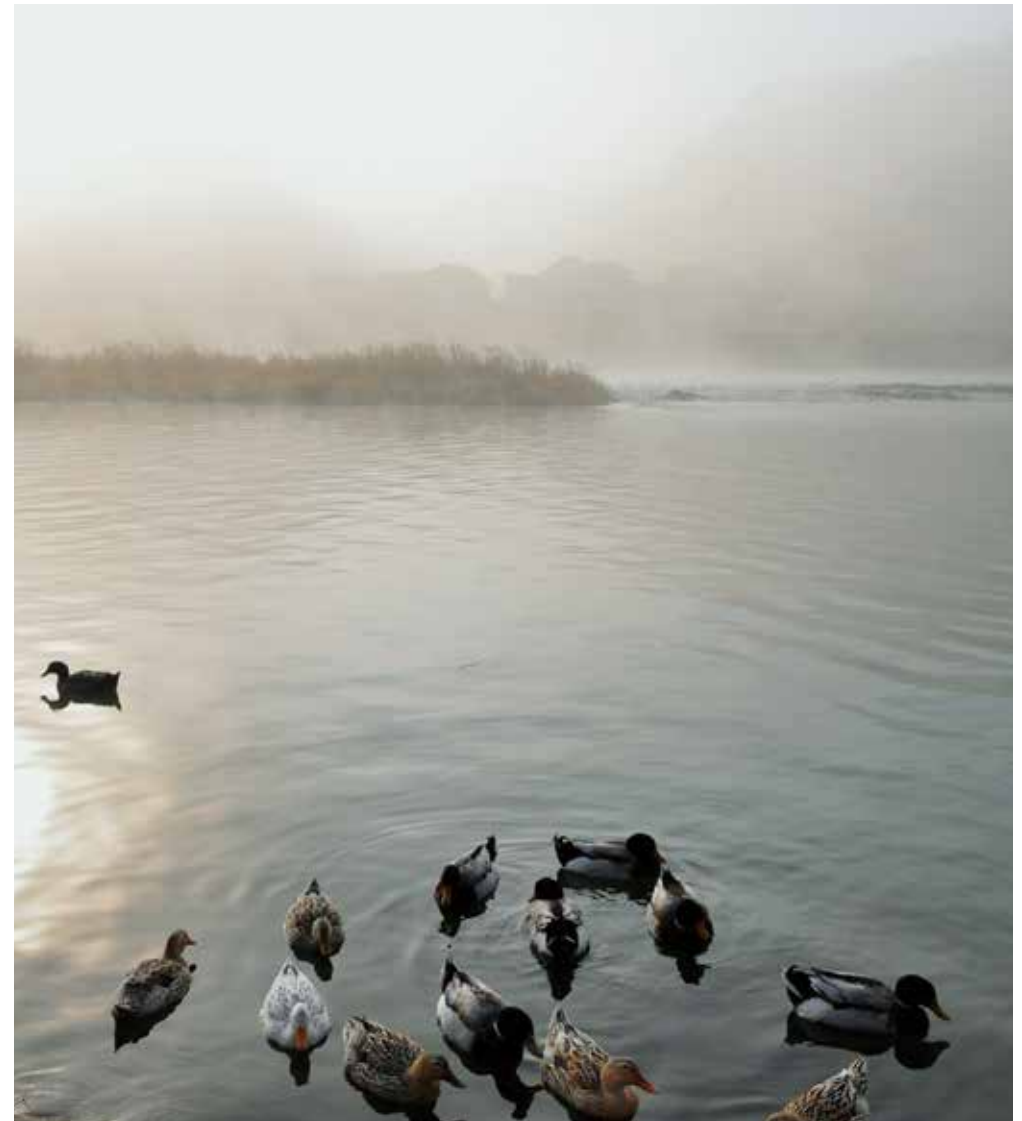


明日は晴れ、明後日も晴れ



「水鳥遊ぶ」人吉市・くまりば横の球磨川にて © 山口啓二

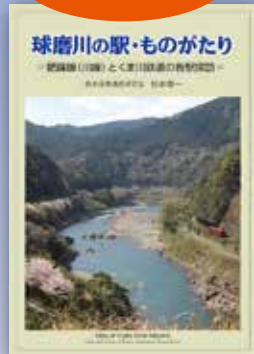
肥薩線開通110周年・くま川鉄道開通30周年・湯前線開通95周年・記念発刊

球磨川の駅・ものがたり

＝肥薩線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

絶賛発売中



「くまがわ春秋」に
連載された
31駅が一冊に
ルカラー
(込)

懐かし
球磨川の
駅を
たどる

■A5判 212頁オールカラー
■定価 1,650円(税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社、著者宛にどうぞ。



注文・発行元：人吉中央出版社 〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
☎ 0966-23-3759 / FAX0966-23-3759 <http://www.hitoyoshi.co.jp> Info@hitoyoshi.co.jp

著者連絡・注文先：熊本県人吉市九日町 115 松本歯科医院（〒 868-0004） Fax 0966-25-1360

雜誌 81779-03-0



4910817790307
00500

月刊 くまがわ春秋 第48号 2020年3月9日発行

刊 くまがわ春秋 第48号 2020年3月9日発行
企画：人吉塔磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759
<http://www.hitooyoshi.co.jp/> info@hitooyoshi.co.jp

定価 550 円

本体 500 円

最近のおもな出来事

- 2月1日(土)
▽「人吉球磨は、ひなまつり」オープニングイベント(人吉クラフトパーク石野公園)
▽第66回文化財防火デー防火訓練(岩屋熊野座神社)
2月9日(日)
▽はじめてのウンスンカルタ体験(人吉市「くまりば」)
2月15日(土)
▽第26回人吉ふれあい100円商店街(人吉市中心市街地)
▽城下町「やつしろ」のお雛祭り／ひなく雛祭りオープニングイベント(八代市本町一帯／日奈久温泉)
2月16日(日)
▽第17回ひとよし温泉春風マラソン(メイン会場…ふるさと歴史の広場)
2月18日(火)
▽人吉場外車券売場を考える講演会「ギャンブル依存症とは」(中小企業大学校人吉校)
2月22日(土)
▽球磨湿地研究会「湿地保全報告会」(相良村松葉公民館)
▽多喜二・百合子に学ぶ・かたる「早春・文化の集い」(中小企業大学校人吉校)
3月1日(日)
▽相良村長選 投・開票
3月4日(水)
▽青井稻荷神社「初午大祭」

3月号(第48号) 目次

- 故・福井弘さんの写真展…3
漆—その後 宮川 続…12
いもご短歌会…21
八竜山遊歩道を整備する若者達 つる祥子…22
父福井弘の写真展を見て 福井昭弘…26
住みたい田舎ランキング③ 岐部明廣…30
建築みてある記④「石匠館」森山 学…33
くまがわの神さん仏さん④③ 宮原信晃…38
おととわつとあすび③③ 松舟博満…41
「あがつ段」④⑤ 上杉芳野…42
韓国「全州」訪問記① 宮崎勇市…44
柳人があじわう漱石俳句④④ いわさき楊子…53

前山光則さん 熊日文学賞を受賞

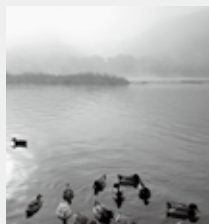
- ・巨大な壁『球磨川物語』澤宮優…4
- ・前山光則外間記 楠原正元…6
- ・父とコアサ 前山史…8
- ・麦島さんと前山さん 石原浩…10
- ・『この指に止まれ』を読む 上村雄一…16

今月の一言

『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より

諸君の仕事の結果は他人が評価する。諸君はただ、今、この瞬間に諸君の心を清く正しく保つよう努力しさえすればよい。
(ジョン・ラスキンによる)

表紙写真「水鳥遊ぶ」



人吉市・くまりば(旧国民宿舎 横の球磨川にて
子供の頃球磨川に居る中型の鳥はシラサギくらいだった
と思っていたが、最近はおアサギやカワウまで群れをなして
いることがある。シラサギの数も
半端ではない。この辺りにほぼ毎日
現れるカモなどいたら当時の悪ガキ
達の格好の餌食になっていたカモ。

撮影／山口啓一(人吉市)

- お休みどころ通信⑬ 興野康也…54
記憶の落ち穂④⑦ 坂本福治…55
鶴鶴短歌会 二月詠草…56
漢和字典は面白い③① 鶴上寛治…57
倉敷便り③③ 原田正史…58
季語で一句④ 永田満徳…61
小説・相良清兵衛②⑦ 山口啓一…62
「死んだ児の齢を数える」鶴上寛治…67
字図で見る球磨の地名③⑥ 上村重次…68
げっかん・ぎひょう…71
外来語から学ぶ英単語④④ 藤原宏…71
方言を味わう④③ 前田一洋…72
くまがわ学習塾③③…75
前号「くまがわ学習塾③②の答え」…77
インフォメーション…79



追悼 板井優弁護士

- ・一人の千歩より千人の一步 緒方雅子…48
- ・板井優さんと私 緒方俊一郎…51

本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店(錦店・免田店・多良木サンロー
ド駅店) ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

ふるさと人吉からのアルバム



福井弘さん
(松本晋一氏撮影)

本誌の創刊号から連載された「球磨川の駅・ものがたり」の取材協力者で、鉄道研究家だった故・福井弘さんの写真展が、3月13日から北九州市門司区にある九州鉄道記念館で再開される。

福井弘さんは人吉球磨を中心に、永年にわたり鉄道写真を撮り続け、鉄道関係物の収集、研

故福井弘さんの写真展

北九州市の九州鉄道記念館で

究を続け、昨年9月1日に89歳で逝去。生前は鉄道を中心として多くの写真を撮影されたが、雑誌への投稿、寄稿がほとんどで、個人の写真展としては初めてとなる。

当初は2月4日から開催されていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から一時休館、3月13日から再開して4月5日まで展示される予定。なお今後、「福井弘氏記念・肥薩線撮影会」なども予定されている。

(関連記事26頁参照)



巻頭言

検事総長の人事問題

日本国憲法は、国会・政府・裁判所をそれぞれ独立の機関とし、三権分立の仕組みを採用した。議院内閣制のためアメリカ合衆国ほどに厳密な分立ではないにしても、大枠としては、各権力の分立を原則にしている。しかもそれだけでなく、行政府の専横を抑止するため、行政府内部に人事院・日本銀行・内閣法制局・検察庁・公正取引委員会などの独立組織を置く手法もとってきた。行政権の逸脱行為を最小限にとどめようという先人の知恵による。税金の不適切な使用を調査する会計検査院は分かりやすい例で、憲法にも同院の役割は明記されている。検察庁も理解しやすいだろう。

国会議員には、国会開催中には国会の同意がないかぎり逮捕されないとする「不逮捕特権」が与えられているが、それは国会の重要性を尊重したうえでの例外規定で、国会議員であれ、国務大臣さらには総理大臣であっても、犯罪の嫌疑があるときには検察官（検事）の捜査対象になる。大統領の地位にあるものは、その地位にある期間中は、逮捕されることはないとする国もあるが、日本はそういう立場をとっていない。日銀は財務省の下請け機関でなく、政府の経済政策を金利の側面で抑止する機関で、独立性・中立性がその前提になっている。

ところが近年、状況がどうもおかしい。日銀総裁、内閣法制局長官、検事総長などの人事がこれまでとちがってきている。先日の上院議員選挙で、ある大臣が会計検査院の局長を叱責する場面があつて、本当に驚いた。国会議員は選挙を通じて選出された選良で、大臣の多くは国会議員から選ばれているが、それだからといって、内閣がすべての行政機構の頂点にたっているわけではない。国務大臣はもちろん、総理大臣もそうである。

検事総長の人事と関係して、財務省から検事長の定年を延長したい、そのために定年規定の法解釈を変更したいとの要請があつたので、内閣は財務省の意向を尊重して、法解釈の変更を認めたのであつて、なんら問題はないと安倍首相は答弁しているが、それでよいのかと心配になる。特定検事の定年だけを延長するのは、どう考えても不自然であるから、内閣としては仮にそういう要請があつたとしても、それを認めないのが筋である。疑われることをしない、それが政治の鉄則である。(春秋)

前山光則さん 第61回熊日文学賞を受賞

本誌43号で紹介した前山光則さん(72) 〓八代市〓の『ていねいに生きて行くんだ』(弦書房) が第61回熊日文学賞を受賞、同書は前山さんが出合った本や交流した人々、旅の思い出などをつづった70編のエッセーを収録している。今回はその前山さんの素顔に迫った。



の風格のある方には、こりや書きにくいものです。

その都度、「この若造、礼儀をわきまえんか」と店内で椅子とテーブルを引いて、お得意の柔道の背負い投げで私を床に叩きつけられたとなれば、「寺内貫太郎一家」並みの大傑作のエッセーが書けるのです。ですが、「ヨカヨカ、会いたーい」と仰つてもものの10分で来店されると、ここでドラマに入る余地もなくなるのです。

先生の業績については、他の方が詳細に書かれるだろうから、僭越ながら一作だけ触れさせていたいただき存じます。

私はこの十年、筑後川の紀行文の取材、執筆に取り組んでいます。が、いまだに暗中模索で完成まで目

巨大な壁『球磨川物語』

作家 澤宮 優

編集部から、前山先生について一筆書いて頂けないかと言われ、快諾したものの、先生との強烈な思い出を書こうにも思い当たらず呻吟(しんげん)している有様です。

じつは今までもいろんな人の評伝を書きましたが、皆一癖も二癖もある人ばかりで、マムシと添い寝した高木護氏、小林秀雄に飲み屋の二階で殴られて、階段を転げ落ちた佐古純一郎氏のように、変人系の人

途が立ちません。どうも私の無意識の部分に巨大な山となつて聳えている作品の存在があるからだと思最近感じるようになりました。先生がお書きになられた『球磨川物語』(葦書房・平成9年刊)です。これを超えたくても越えられない己の非力さと偉大さに打ちのめされております。

川を書くということは本当に難しい。これを歴史的側面から、自然地理の面というふうに二つの分野に



がじつに書きやすいわけです。

先生のお付き合いも、もう10年になりますが、ご自宅にも伺い、奥様の手料理もごちそうになり、さらには「ミック」に入つたものの、一人ではつまらないから、予告なしに電話で先生をお呼びして、さらに「明日の朝は福岡に用事がある」と言われる先生を無理に飲み屋に引っ張り出し、毎度毎度ご迷惑ばかりかけながら快くお相手して下さる大人(たいじん)

しぼるとそうでもないわけです。しかし文化、自然、産業などすべてを含めた作品にすると難儀を伴います。土性骨がしっかりしていないと、バランスがとれず作品の体をなさなくなる。しかも球磨川という日本三大急流の大河川はとにかく書くべきことが多すぎる。これを見事に調和させ、破綻させず、腰の据わつた作品に仕立て上げられたことは、やはり先生の手腕と申し上げても言い過ぎではないでしょう。我が国に川全体を描いたノンフィクションが希少なのも、練達の書き手でも困難であることを物語っています。

先生は人吉のほうで長く教師生活を送られ、今も球磨川の下流近くにお住まいです。先生の人生にはつねに球磨川が身近に存在してい

たわけです。そこには作品の根に球磨川への愛があったことを思わせま
す。その思いの深さがあって、作品
を完成することが可能だったのだと
今は推測しています。

ミツクのカウンター席で伺った先
生のお話から、ものを書くにはその
対象に愛が必要なこと、その原点に
立ち戻された思いがします。

10年前、初めてお会いしたとき、
先生の車で八代市内の路地を見学
がてら通りました。ある路地でピン
ク映画館を見つけました。二人とも
車で降りて看板を見つめました。「徳
川いれずみ師 責め地獄」だったか
題名は忘れましたが。
「ほうヤツチロにもこぎゃんどの
あつとばいな。捨てたもんじゃなか
な」

先生はしみじみ言われました。
建前だけの清潔な映画館ではなく、
人間の匂いのする猥雑さを伴ってこ
そ、町は本物の文化を創り出してい
けるといふこと、私の知らない八代
の深度を教えていただいたように思
います。八代も捨てたものではない
ですね。

カラオケにも行きたいですね。先
生の十八番の「雪国」また聞かせて
ください。そして「筑後川」の本を
先生のもとにお持ちすることも。
前山先生のますますのご活躍、
ご健筆をお祈りいたしております。

【さわみや・ゆう／東京都】

前山光則外聞記

楠原正元

今般、熊日文学賞を受賞した前
山光則さんをみなさまにご紹介する
とき、小生は親しみと若干の尊敬
の念を込めて「大兄^{たいけい}」の尊称をつけ
ることをならわしとしている。大兄
と小生とは家族ぐるみの二十年來の

おつきあい。このさいである。「てい
ねいに生きていくんだ」といつつ、
意外に「ていねいに生きていない」
大兄の素顔の二面を「暴露」したい。
「弱点」があるとき、本物の人物
は光り輝く。

ケイコ好き

先日、大兄の受賞を祝つて内輪で
お祝いをした。出席者全員がメッ
セージを述べたのだが、小生は「な
ぞ解き」問題をだした。

前山光則と掛けて大関貴景
勝と解く。その心は、
すべてはケイコの賜物です。

やさしい「なぞかけ」だ。亡き
奥様の名は桂子さん。桂子さんの
お陰で、今日、大兄が他人様に顔
向けして生きている。ご本人もそれ

を自認してやまない。はたからみて
も、そうである。

バンカラ

弦書房のホームページに大兄の連
載エッセーが掲載されている。東京
で過ごした大学時代のエッセーもあ
る。曰く、高校時代は柔道で鳴ら
した（聞くところでは、小学校5
年生のときから柔道を習っていた）、
大学の体育ではボクシングに熱中し
た。日常は田舎者の護身術として

ポケットに竹刀の鐐^{ろう}をしのばせてい
た。幸い鐐を振るうことはなかった
が、学生運動の中核派と革マル派の
内ゲバに出くわして素手で大立ち回
りを演じた。など。
いまでこそアルコールを断つてい
るが、その昔、大兄は鯨飲していた。
その頃の武勇伝は知る人ぞ知る、と
小生はにらんでいるのだが……。芥川
龍之介的にいえば「真相はやぶの
中」。

カラオケ



心は別のところにあったのだらう
か、この直後、大兄はコケなっ
た



大兄は背戸屋から世相を垣間見
るのであります

20余年前、大兄の十八番^{おはこ}は石
原裕次郎の「嵐を呼ぶ男」であつ
た。どうしたのだらうか、最近
はあまり歌わない。察するに、聞
き手の女性のみなさんが「嵐を呼
ぶ男」を知らない時代になって

それで歌っても女性のみなさんにウケないと大兄は判断したのだろう。最近の持ち歌は「男はつらいよ」。

「嵐を呼ぶ男」と「男はつらいよ」では、同じ男でもずいぶんちがうようにみえるのだが、大兄の好み・ウケ狙いの戦略に口出しするわけにはいかない。重要なのは、両曲は歌中に「セリフ」がはいる点で共通することだ。大兄は、歌はそれなり。「セリフ」の部分は熱が入り、石原裕次郎と渥美清になりきる。作家は



さすがに違う。いや作家というよりも、「ていねいに生きる」人物はな

父とコアサ

前山 史

うちの父は、コアサ（ネコ、女の子、多分2歳）と暮らしている。



小さい頃のコアサと父

にことにも真剣といふべきか。

【くすはら・まさもと／八代市】

父は「コアサなんて別におつてもおらんでもよか」と言うし、コアサは、父と外で出会ってもプイと他人のフリをしたりするが、私は、結構いいコンビだと思っている。

コアサのご飯は朝5時、夕方5時と決まっている。

コアサは、外に遊びに行つていても、朝夕5時少し前には、帰つてきて台所をウロウロし始める。

「ニャーン、ニャン、ニャーン（トー

サーン、ゴハンチョーダイヨ）」

「ダメーあと10分待ちなさい！」

「ウニャーン、ニャンツ（チョットクライ、ヨカロー）」

「ダメー！5時より前はまだ夕方じゃなかけん、いかん！あと8分待ちなさい！」

「ニャッ！（ケチツ）」

少しくらい早くあげても良からうと私は思うが、甘やかしたらいかんだぞうだ。

コアサは、暖かくなると、お出かけが忙しくなる。

お友達ネコたちとネコ集会をしたり、イケネコとデートしたり…。

一晚二晩帰つて来ないこともある。父のお相手をする暇など無い。

父は、「コアサー、どこいったとやー？」と近所を探し回ったり、コアサのお友達ネコに「コアサがおらんとぼつてん、見とらんね？」と聞いたりしている。

コアサも、お出かけ三昧でも

父が仕事をしている部屋に時々、「にゃー」とご機嫌伺いにきたり、うたた寝する父の近くで一一緒に寝そべつたりしている。

つかず離れず。結構いいコンビ。コアサとのウワキなら母も許してくれるだろう。

【まえやま・ふみ／八代市】



ご飯はあと8分までといわれブスくれてテーブルの下に籠るコアサ



ネコと2人で寛ぐ



最近のコアサ

麦島さんと前山さん

石原 浩

私が前山光則さんに出会うことができたのは、郷土の写真家・故麦島さんのお陰である。私が所属する八代市立博物館未来の森ミュージアムに、麦島写真の寄贈があった時の事。三千枚を超える膨大な数の写真整理に悩んでいたところに、是非手伝いたいと名乗りをあげてくれたのが前山さんだった。ご存じのとおり、前山さんは麦島勝写真集『川の記憶―球磨川の五十年』(葦書房)、『昭和の貌《あの頃》を撮る』(弦書房)を編集、解説を付して紹介。麦島写真の魅力が世に知らしめた最初で最大の功労者である。

この写真整理は、当時ケアホームにお住まいだった麦島さんを訪ね、写真にまつわるエピソードを聞くことから始まった。要領を得ない私は「この写真はどこで撮ったんですか? この人は何をしているんですか?」と味気ない質問ばかり。しかし前山さんは違った。「懐かですなあ」に始まり、「あん頃はござらん人がおらしたなあ」と麦島写真に共感を寄せる一方、昭和三〇〜四〇年代の「日常」にカメラを向け続けた麦島氏の先見性に、前山氏は感嘆する。それに呼応して麦島さんは、まるで昨日見てきたかの

ような鮮明さで当時の様子を語りはじめた。私は麦島さんの話に夢中だったが、今思い返すと、前山さんの取材能力の高さ、いや懸命に生きる人のことをもっと知りたいという前山さんの探求心が、麦島さんの記憶を呼び覚ましたのだろう。

前山氏の最新作『ていねいに生きて行くだ《本のある生活》』(弦書房)を読むと、郷土の作家の心情をていねいに探り、心に響く言葉を引用しながら、身近な人たちの紆余曲折あった末にたどり着いた姿への共感が綴られている。

ていねいに生きて行く…麦島勝さんの生き方がまさにそうだった。「そぎゃんとば撮つてなんになるか」と写真仲間には揶揄されながらも、山村や漁村、街に暮らす人々の「日常」

を、毎日、日記を綴るように撮り続けた。すると普段気にもとめない

日常のなかに様々な表情が見えてくる。この些細な表情を捉えたところに麦島写真の魅力がある。

前山さんの生き方も

しかり。知人に語りかけるような平易な言葉で、日々感じる小さな驚きや喜びを丁寧に書き記す。他人事のような共感ではなく、自身の体感を通じて心に染みてきたことを、一つ一つ丁寧にすくい取る。例えば最愛の妻に先立たれた時の心情、奥様の日記を読み返して気づいた事への驚き、そして今。日々刻々と変化

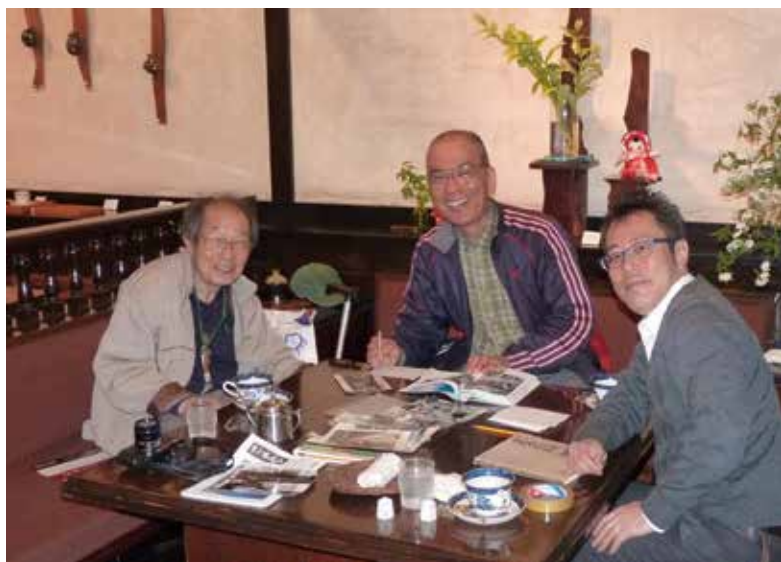
化する自身の心情を、冷静に見つめ反芻する。

写真家として、作家として名を成したお二人だが、実はその自覚は全くないようだ。「私は写真家じゃありません」と麦島さんは断言。

前山さんも「作家なんかじゃなかよ」と謙遜される。二人にとって「写真」や「言葉」はあくまで道具。

もちろん愛おしく大切な道具であることに違いはないのだが、伝えるべきものはその先にある形にならないモノ。逆に言えば、本当は誰もが作家になれ、写真家になり得るということだ。「ていねいに生きて行く」とは、こういうことなのだろう。

【いしはら・ひろし／八代市】



麦島氏と前山氏（喫茶店ミックにて）

麦島氏と前山氏（喫茶店ミックにて）

漆—その後

環境省希少野生動植物種保存推進員 宮川 続

昨年3月13日、茨城県の大子町から届いたウルシの苗は水上村・錦町・人吉市内3ヶ所の、合計5ヶ所に分けて栽培をお願いしました。皆素人で、ウルシの木は見たことがありません。当たり前と言えば当り前ですが、ウルシとハゼの違いがわかりません。そして、みんな「ウル

シ負けはひどい」という話は聞いており「ウルシは危ない!」という先入観は相当なものでした。また、そんなひどく被れるウルシは、人以外の動物は食べないだろう、食べてもよほど餌に困ったときに僅かに食べるくらいだろうという思い込みは、私も含めて持っていました。

思ったよりひどいシカの食害

それぞれの、この1年の栽培の様子を追ってみました。

まず、ちょうど伐採した後の山を提供してくれた東さん。伐採後の広

いスペースにはイヌザンショウやタラノキなどトゲの多い木がたくさん生えています。東君と二人でそれらを伐採し植栽するスペースを作り、30本を植えました。

植栽して約1ヶ月後、現場へ行つ



大子町から届いた150本のウルシの苗

て驚きました。多くがシカに皮をはがされています。中には植えた直後に食べたのか、引き抜かれています。ほとんどが食害を受け約3分の2が、何とか脇芽を出すことで生き残っていました。

田中さんの被害はもっと深刻でした。元々茶畑でシカの食害がひどく電気柵で囲って栽培されており、提供いただいた畑はその柵が作ってありませんでした。植栽してから1ヶ月ほどして行ってみると、芯が

食い切られ、あるいは引き抜かれ、生き残っていても皮をはぎとられて、このままでは栽培は無理な状況でした。残った芽を吹いたものに金網を被せ、支柱をし、これ以上被害が出ないようにしました。

8月末、生き残っていれば苗を作る親木にでもなればと見に行きました。ところがほとんどウルシの木が見当たりません。大きく伸びた草を払い、支柱を頼りに木を探すと根元に小さな芽を吹いたものが僅か



芯を食い切られた苗



元の木は枯れ、やっと出たひこばえ



すぐ脇のヌルデは全く食べられていない



東さんの植栽の様子

後がないことから、シカは好んでウルシを食べているようです。「毒があるから」と思う私のハンパ知識は見事に外れたのです。

周りにあつたヨウシュヤマゴボウ



順調な「焼畑の会」の苗

（子供の頃インクの実といって遊んでいました。人には有毒植物です）もすっかり葉を食べられていました。私達に有毒でもシカにはとてもおいしい食べ物なのでしょう。

うまく栽培しているところもあります。水上の「焼畑の会」の阿部さんたちです。焼畑の復活と森林再生を兼ねて活動しています。焼いた後、ソバやヒエ、地ダイコンなどを栽培し、



苗と「焼畑の会」の阿部さん

その後に広葉樹を植え森林の復活実験をしています。

この一部に植栽していただいたウルシは、とても順調に育っています。それもそのはず、鹿よけネットを張っています。焼畑の作物もその後に植栽した広葉樹も、そのままではシカの被害がひどく、しっかりとシカ対策がとられています。

錦町の前田さん、下原田町の荒毛さんのウルシはシカの被害がありましたが、割と順調に育っており、人家近くに植栽したのが幸いしている様です。大失敗だらけのウルシ栽培ですがいい教訓を得た1年でもありました。

ウルシを食べる

ウルシを食べるのはシカだけではありません。人も食べるのです。昨年10月1日から宮崎勇市さんたちと韓国を訪れました（本誌2月号既報）。全州から公州への高速道路上からウルシによく似た木が見えました。ただ、樹液を採集する大子のウルシの木とは大きく樹形が違っています。ちょうど人吉球磨で見える果樹の様に枝分かれしています。李先生にたずねました。すると、「ウルシは栽培してあります。ウルシは食べるんですよ」と言います。驚いて確認しました。「ウルシとはあの被れる、塗り物にするウルシですよ」と言う、「はい、私も夏によく食べます。食堂によっては解毒剤を用

意しているところもあるようです。」という。

詳しく聞くと、鶏肉や犬肉を朝鮮人参や干しナツメ、などと合せウルシを入れて薬膳として煮て食べると言います。疲労回復や夏の暑氣払いとして食べるとのこと。犬の肉と聞くと驚かれる方もあるかも知れませんが文化の違いです。生の魚刺身）や、鯨の肉を食べるのは欧米からすれば野蛮たという考えもあるようですが、これも立派な日本の食文化です。こんな違いと考えれば何でもありません。文化の違うところに行けば体験するのが一番です。宮崎さんには「今度、韓国に行く機会があつたら、犬肉のウルシ煮を食べに行こう」とお願いしているところです。

最後に

平成が終わり令和が始まった昨年は、人吉球磨のウルシ栽培元年でもありました。最初の年の失敗は、今後の大きな指針となるでしょう。文化庁が国宝などの文化財の修復には国産漆を使うことを義務づけてから5年が過ぎようとしています。国産漆はきわめて少ない現状（国内で使用される漆の10%以下）では、国宝青井さんの漆塗り替えは不可能に近いものです。国宝青井神社を人吉球磨の漆で塗るためにも、読者の皆さん、ウルシ栽培を始めましょう。

【みやがわ・つづき／人吉市】

※これまでのウルシ栽培への取り組みについては本誌34号（2019年1月）12頁参照。

明日は晴れ、明後日も晴れ

前山光則『この指に止まれ』を読む

上村雄一

暗河の会

近著「ていねいに生きていくんだ」を再読し、触れておくべきことがあまりにも多いと気づく。そのひとつは、昭和50年3月30日印刷の『この指に止まれ』のこと。

昭和48年8月、石牟礼道子・松浦豊敏・渡辺京二の三人が中心になって季刊誌「暗河」が創刊された。前山によれば、同誌2号か3号目発行の頃に、彼は「暗河の会」に入会している。「熊本第一高校で国語の教師をしていた福山継就という人に連れられて、暗河の会の溜まり場カリガリに行った」のが入会の切っ掛けになった、それは「昭和48年12月22日か23日」であろうと前山は記している。昭和22年7月22日生まれであるので、そのとき彼は25歳であった。翌年の昭和49年7月の「暗河」誌第4号に「島

尾敏雄序論(1)」を書くなど、入会後、前山はたつづけに作品を書き「暗河」誌に掲載した。『この指に止まれ』は、その時期の前山の短編をまとめたもので、昭和52年3月30日に印刷し、同年4月20日に葦書房から発行されている。通常は発行日だけを記載するのが通例だが、同書は、発行日とは別に、印刷日を明記する方法をとった。しかも印刷日は年度末の3月30日である。年度末に印刷は済んでいたと示しておきたい何らかの事情があったのだろうか。帯文は暗河誌で批評の対象にした島尾敏雄が書いている。収録作品をみると、入会から3年余の短期間に書いたものに限定されている。そのことにも何らかの意味があるだろうか。

昭和50年4月に熊本商業高校定時制から多良木高校

水上分校に彼は転動しているので、転動2年目の年度末に印刷したことになる。彼によれば、「転動後、毎週土曜日に学校の授業が終わると熊本へ出て行ってカリガリで「暗河」の編集をする。そして熊本市葉園町の石牟礼さんの仕事場に泊めてもらい、日曜日には球磨郡水上村の職員住宅へ戻る、という生活をするようになった」。水上村から熊本市内への移動は容易ではない。それにもかかわらず、彼は喫茶店「カリガリ」に通いつづけ、水を得た魚のように活動し、その作品を一冊の本にまとめたのであった。石牟礼道子・松浦豊敏・渡辺京二の三人はとてつもない巨人で、彼らの磁場が前山を「カリガリ」に引き寄せたのだろう。

三人に遭遇したのは偶然であろうが、前山光則はその

偶然を逃さなかった

のは偶然ではない。

巨人の磁場にひきよせられるだけの作家としての能力を彼はそれまでに身につけ



『この指に止まれ』の口絵

作家への途

『この指に止まれ』のあとがきで、彼は、

「高校へ入ってまもなく、とても不安定な気分にとらわれるようになり、自分のうちに溜まっていく澱のようなものを何か始末していかなくては、頭がおかしくなるのではないか、惧れるようになった。なにかしなければ。

ていたのであって、それを見すぐすべきではない。それにしても、どうやってその能力を身につけたのか。作家は作家になろうとして意図してもなれるものではない。有名人の美文を模倣したからといって作家になれるとは限らない。むしろ、それだけでは作家になれないというべきだろう。自己の内面の動き(淀みを含めて)を文字として表出させたいとの衝動に駆られて原稿用紙に向かったとき、人は作家になる。漱石は帝国大学の教授の仕事では、その衝動を満足させることができなかった。それ故彼は大学を辞め作家の途に進んだ。漱石は文豪になるうとしたのではない。彼の文学的衝動が彼を作家にした。前山も同一である。

けれど、生まれつき万事において不器用な私には、たとえばスポーツをしたり、カンパスに絵筆を走らせたり、良い声でうたったりするにふさわしい素地がまるでなかった。手探りの状態が続いたが、あるとき、『ことば』に頼ってみた。そしたらなんとか、気分の斜面に歯止めをかけることができた」

と述懐している。小学校5年のときから柔道を習い絵も決して下手ではなく歌も好きな彼だが、精神的淀みを整理するには「ことばを綴る」しかなかった。「あとがき」の通りであるとすれば、彼の作家への途は高校時代にはじまっている。その前に助走期間があつたろうが、「ことば」が生きていくうえで欠かせないものになったのは高校時代ということになる。その時点で作家になる意思があつたかは別にして精神を安定させるためには「ことば」に頼る以外にはなくなつていた。「ことば」に対する信頼は大学時代の雑誌づくりにつながり、暗河の会との出会いの幸運を彼にもたらすことになる。詳細は省くが、それは「本を読む」ことへの欲求と絡まり、「本のある生活」が彼を作家たらしめる動因になった。読む行為と書く行

為の相好作用のもとで前山は生きてきたし、これからもそうであろう。本を読みながら心の動きを整理しつつ、それを文章に綴る作業を通じて作品に仕上げとき、彼は自己の実存を肌で感じるのだろう。

亀は竜宮を目指す

『この指に生まれ』に収録されている9編の短編を読めば、同書が前山の一種の自叙伝であることに容易に気づく。小学校4年生から大学時代までの彼の姿が書き留められている。前山は、9編を通じて、自己はなにものか、どこからきて現在にいたっているのかを探ろうとしたようにみえる。

彼は人吉で生まれて同地で育った。その人吉を中心舞台にして物語は組み立てられている。地名、学校名など具体的に書いてあるので、人吉の読者であれば昭和40年前後の人吉の状況をなつかしく感じ取るにちがいない。実際、人吉に対する限らない郷愁が本書の大枠である。その大枠のもと、隣町のワルゴロ（悪者）とのたわいもないケンカ、同じ地域でもどうしても波長の合わない

者の存在、親戚の死に直面しての言葉にできない少年の心の動き、花火遊び、魚とりなど大抵の者が経験したことのある出来事、あるいは其稼ぎの両親に対する子どもの心情、自己を主張しようとしても年上の兄にはどうしてもかなわないもどかしさ、その兄も父からみれば「子ども」にすぎない変更不可な事実。本書を眺めるとき自我を確立しつつある少年の姿が自然にうかびあがってきて、主人公の少年（おそらくは、前山光則少年）に向かつて、お前の気持ちは分かるぞ、あと少しい、頑張れ、情けんなかぞ、しっかりしろ、などと声をかけたくなる。「平凡な少年」がいかに苦労して生きていたか、大人の世界といかに対峙してきたか、それでも戻りたくなる少年時代とは一体なものか、前山は原点回帰をくりかえすことで、現在の自己の足場を確認しようとしている。祖母をめぐる小編は原点確認の色彩がきわだっていて、高度経済成長時代以前の生活世界のあり様をわれわれに自覚させる。

昭和30年に『経済白書』は「もはや戦後ではない」と宣言し高度経済成長の時代に入るが、それによって失わ

れたものの正体に前山は迫ろうとしている。個人に還元つくせない世界、たとえば祖母、両親、姉兄の濃密な家族関係、あるいは、川魚のイダ漁の楽しみ、濁りすくい、洪水体験などなど、人吉にかぎらず球磨川流域に住んでいる者に馴染みのある出来事が局面をかえつつくりかえし登場するが、それは現在の自己をつくりあげている原点を確認しようという前山の意思に起因するだろう。

そうした側面が比較的薄いようにみえる小編「古い切符は使えない」は、前山の問題意識をもっとも象徴的に示す作品で「読に値する。幼稚園時代の友達（女の子）が、年を重ねても決して大人にならず、その娘は彼が東京に「戻る」ことを阻止する。「戻る」と「帰る」は決定的にちがうのであって、主人公は東京に「帰る」のではなくあくまでも東京に「戻る」のである。原点はあくまでも人吉で、東京（高度経済成長の産物）は別の世界に止まる。使用期間をすぎた「古い切符」は利用できないので期間内に利用しなければならぬのだが、新しい切符を購入することもできるのであって、人吉を離れるか人吉に止まるかは、当人の意思しただが、娘は「復路切

符」の使用を主人公に許さず、人吉から主人公が「脱出」するのを阻止しようとしたのであった。「竜宮へ」と題する一編は原点回帰の分かりやすい作品で、亀は陸ではなくどうしても川に向かう、亀の故郷・生きる場所は川であり竜宮で、祖母はそれを知っていて、せっかく捕まえた亀を逃がすように孫（主人公）に求めるのであった。

青年作家・前山は、このように原点確認を本書で試み

ているだが、そのことは前山作品を理解するうえでひとまず留意してしかるべきだろう。たとえば、別著『球磨川物語』のカンジンドン（勸進殿）の「シギョーさん」は本書ですでに登場し重要な役割を

果たしているのであって、前山がなにに注目しているかを知る手がかりになる。

人吉は前山を育てた。しかし、人吉を含めた球磨地方全体の文化がその背後にひかえている。人吉だけでなく球磨人吉全体をみないと、自己の立ち位置はみえてこないと前山は考えたのではないか、それで『球磨川物語』を編むに至ったのではないか。原点確認の「意思」は「麦島勝の写真」に対する眼差しにも連動しているのではないか。

それにしても「暗河」は、原点を探し求める前山にふさわしい言葉だ。石牟礼道子らとの出会いだけでなく、その言葉自体が彼の魅惑したようにも思える。本書の中心舞台のひとつ「山田川」の河口に、山頭火が宿泊した宮川屋があったのは偶然であろう。「山田川」は、球磨川の支流で、主人公は山田川で遊ぶので精一杯であったが、彼の兄は「球磨川」を主戦場にした。『この指に止まれ』から『球磨川物語』への行路は、兄に追いつくうえで避けて通れない課題であった。

球磨川の水は石牟礼の故郷・天草にたどりつき不知火



山田川河口。山頭火が投宿した宮川屋があった

くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

ふるまいも心の中も瓜二つサイコパスたるアベとトラランプ
「権力は腐敗する」との箴言を日々実証のアベとトラランプ

※サイコパス―病的嘘つきで高慢ちき、罪悪感ゼロなどの意 柳原 ニ男

春待ちて小さき雑草芽を出してごめんねごめんとついと引き抜く
日曜日となりの子らの遊ぶ声遠くの孫はいかに遊ぶや

坂本 ケイ

愛用の和服を上下に裁ち直し車椅子にて祝いの座へと
きれいだぞの夫の声に誘われて車椅子寄せ夕陽見入りぬ

上田 廸子

「募ったけれど募集はしていない」苦し紛れの答弁あわれ
ウイルス禍に桜疑惑はかすみゆく逃がしてならじメディア弛むな

上田 精一

【訂正】二月号の二首目「いじめっ子」は「憎まれっ子」の間違いでした。



荒瀬ダム撤去作業をみつめる前山。解体されていく荒瀬ダムを眺めて、前山はなにを考えたのだろうか

海に流れていき、洲上毛銭の水俣の海にいたり、さらに島尾敏雄が執筆活動をつづけた鹿児島に流れていき奄美大島につながる。

【つえむら・ゆういち／編集主幹】

山を楽しむことが自然の保護につながる ―八竜山遊歩道を整備する若者達の話―

つる詳子



登山道整備のために集まった若者たち

2月23日の日曜日、八代市坂本町八竜山に今泉から登る登山道をせつせと整備している若者たち15人がいた。地元坂本の者はいない。熊本市や旧八代市等、坂本町外から集まってきた若者たちだ。重い丸太55本を担いで、急な斜面を登って、木段を作り、6合目程にある東屋までを、僅か3時間ほどで整備してしまっただ。この日が数回目の整備である。何故、彼らは坂本の山を整備しているのだろうか。

坂本町で誰もが知っている山とい

えば八竜山。天文台がある山、八代市・八代海が一望できる山、天草に沈む夕日が美しい山として、坂本町民なら誰でも幾度となく山頂まで車で訪問したことがあるだろう。しかし、自分の足で、今泉遊歩道や渋利遊歩道を利用して、登ったことがある人は多くないかもしれない。今泉からの遊歩道も渋利からの遊歩道（写真①・オレンジ線）も急こう配の上、近年は荒れが酷くなっていた。大風や大雨で荒れるに任せ、いたるところが倒木で先に進



写真① 八竜山への登山道

めない状況であった。今泉からの遊歩道（写真①、黄色線）は、急斜面ではあるが、木の階段が2000段以上ある登山道として、地元小中学校の遠足などにも利用されて

きた。しかし、倒木や雑草で道が塞がれるということはないが、近年少しずつ崩れてくる土砂で階段は埋まり、滑りやすい急斜面の登山道と化していた。

そんな八竜山を始め、竜峰山、竜ヶ峰を一日で全部走りたいと昨年始まったのが、この若者たちによる「トレイルランニング」や「つちろドラゴントレイル」だった。きっかけは、昨年坂本で発見された日本最古の恐竜の化石。竜が付く名前が多い山がある八代で発見されたドラゴンの化石が、若者たちの夢を膨らませた。結果、起伏の激しい52kmの登山道を駆け抜けるという、九州でも1、2を争う過酷なコースでの試みが始まったのである。コースの設定・利用する中で、彼らは誰も通



急斜面での整備作業

らなくなった風倒木やシカの食害で荒れた登山道を見た。また、今年もトレイルランニングを同じ場所で開催するなら、参加者にとっても必要な危険は回避する必要がある。なんとかしようという結論は当然というには、思う以上に荒れている登



全く通れなかった渋利からの遊歩道もきれいに（花田順子さん撮影）

してくれる人々が
増えることである。
晴れた日に、汗を
かきながら登った頂
上から見える景色
は何ともいえない。
山から人が消えた
ことが、イノシシや
シカの増加につなが
り、自然の恵みは
人知れず失われつつ
ある。私たちが自
然に親しむことが、
自然資源の保護につ
ながる。彼らが整



登山道を登った先の雄大な眺め

らいいのか迷い、上宮までたどり着
けない状況であった。この登山道を、
地元の人に断って目印を付けたり整
備した結果、とても登りやすくなっ

て、地元の方に喜ばれている。
彼らの願い、——願いというより喜
びは、自分たちがランニングを楽し
めるより、再びこの登山道を利用

備した登山道を是非頻繁に利用し
てほしい。
【鶴・しょうこ／八代市】



写真② 袈裟堂から上宮への登山道



きれいに整備された今泉からの登山道



吉田さん（福島一博さん撮影）

袈裟堂の方々がずっとお世話してき
たが、集落の人口減少と高齢化で
最近では十分な世話ができなくなり
結果登山道も荒れるに任せるまま
になっていた。また、風倒木や植物
の繁殖で荒れたのではなく、シカの
食害で下草が全くなり、
その結果として登山道が崩
れたり、人の踏み跡もない
透けた林は、どっちに進んだ

山道の整備は大変である。特に渋利
からの遊歩道は、入り口に遊歩道
入り口の看板はあるものも、100
mも進むと倒木が至る所にあり、ど
の方向にコースがあるかさえ不明で
ある。倒木を切り倒し、シカが食べ

ないために生い茂ったナチシダやイ
ズセンリョウを切り払うと、やっと
遊歩道らしきものが見えてくる。
彼らが蘇らせたもう一つのコース
が、袈裟堂から妙見上宮までの登
山道（写真②）である。妙見上宮は、

父福井弘の写真展を見て

福井昭弘

地元人吉球磨を中心に、永年鉄道写真を撮り続けた鉄道愛好家の父福井弘が、卒寿を迎える2か月前の令和元年9月に突然鬼籍に入ってから、早いもので半年を迎えようとしています。この度、福岡県門



九州鉄道記念館の写真展案内チラシ

した。

父は生前、鉄道を中心として多くの写真を撮影しましたが、その発表の場は鉄道雑誌への投稿、寄稿がほとんどであって、個人での福井弘写真展というのは初めての開催になります。頑固だった父

が存命なら「おこがましい」と言っ
て実現しなかった企画でもあると思
います。

2月10日、熊本産業遺産研究会
員で、父が取材にも同行した「球
磨川の駅・ものがたり」の著者であ
る歯科医の松本晋一氏、福井弘が人
吉の鉄道の「関守」なら八代の「関守」
であった故小澤年満氏のご子息小澤
光二氏と私の3名で、父に会いにい
くため新幹線と在来線を乗り継ぎ、
はるばる門司港へと向かいました。
父の足元には全く及ばないものの、
鉄道好きの私にとって九州鉄道記念
館はいつか行ってみたい施設ではあ
りましたが、このような形で初来館
するとは感慨もひとしおでした。
館に足を入れると、保存されてい

る蒸気機関車などが目に入り、大
いに気が引かれましたが、それより
まず写真展を見るため2階の展示場
へ。展示場では写真パネル、愛用の
品、手書きのダイヤなどに加え、父
との交友があった方のパネルで盛り

だくさんの展示となっていました。
上原茂美術館長と宇都宮副館長へ
ご挨拶をし、パネル等を見ながらの
思い出話に花が咲きました。愛用の
品や手書きの記録・ダイヤは、1月
初旬に父らしい展示にしてもらうよ



館の入り口では写真展の大きな案内に迎えられた



展示の一部（許可を得て撮影しました）

う私が自宅や人吉駅機関庫横のS
L館（12月～2月は休館中）に遺
品として保管していたものを送らせ
てもらったのですが、正に「福井弘」
そのものを感じられる展示で、来館
者の方に見てもらいたいものの一つで
あります。展示を企画された宇都宮
氏にもその思いは伝わっており、品
物が届いて急遽展示内容を大きく
変更したとおっしゃっていました。
また宇都宮氏の案内で通常は立ち入
れない館内のバックヤードまで見せ
て頂き、展示のみならず、館の隅々
まで楽しませて頂きました。

父が鉄道写真を撮る際にこだわっ
たこと、例えば蒸気機関車が盛ん
に煙を上げていたり、前照灯を点灯
している列車そのものの姿もありま

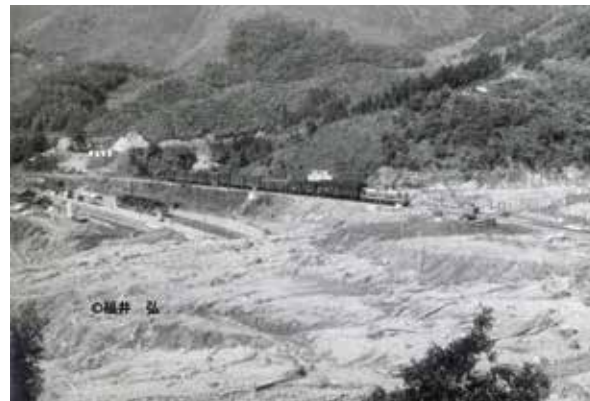
すが、それより列車と風景との融合、それと時代の記録、これを何回も何回も聞かされてきました。

今回の写真展にはそういった「列車と風景の調和」、または「記録」としての写真（例えばポスターの右



8620 型が走る球磨川沿線の風景（S 40 年代）

上に使われている写真は準急「やたけ」の開通風景。S 40 年」等がふんだんに見られる展示となりました。父の古くからの撮り鉄友人や当時蒸気機関車を運転していた方々が口々に言われるのは「今は



土砂崩れで埋まった真幸駅（S 49 年）

肥薩線の山線は蒸気機関車が走っていないのは当然だが、沿線の管理ができていないので、見晴らしなどの風景自体がすっかり変わってしまった。当時の風景が残されているだけでも貴重」とのことです。またカラー写真は色が褪せるといつてこだわった「白黒写真」。しかも1シーン1枚の「ワンショット撮影」。これはフィルムカメラからデジタルカメラに持ち替えてもこの姿勢は変わりませんでした。綿密に路線の構造、列車の速さ、編成を熟知したが上に出来る「神技」というものであると思います。

私は3歳の頃から父の撮影に同行し「させられて」が正確かもしれませんが、大畑・矢岳の山線から、球磨川・川線沿い、そし

て旧湯前線沿線と父が撮影する姿をつぶさに見てきました。何気なく「汽車を撮っている」と思っていました、今回の写真展で改めて父の写真1枚に対する技術・思いが詰まっていることを認識させられた思いでした。

門司港には折角訪れたので観光も兼ねて1泊し、翌11日も展示会場に行きました。11日は祝日でもあり、多くの子供連れの若い家族も



S 44 年 撮影のため立ち寄った古仏頂踏切付近。父と私（3歳）
田澤義郎氏撮影

展示場に足を運んでいました。華やかなS & D 列車をスマホで誰でも撮れる時代になった今、こういった白黒の蒸気機関車の写真を見てどう感じているのだろうか、そういった思いもありながら、展示会に満足して熊本への帰路となりました。

門司港駅へは人吉から遠路にはありませんが、機会があれば是非足を運んでもらい、地元人吉をこよなく愛した肥薩線の関守・福井弘の鉄道写真に込めた思いを見て頂けたら幸いです。

この展示期間（4月5日まで）中、まず3月29日（日曜）に「球磨川の駅・ものがたり」の出版記念も兼ねたSL人吉撮影会（九州鉄道記念館のHPに案内あり）を始めとして、人吉でのこの福井

弘写真展の開催も有志の方々と計画していますので、今後も「福井弘の鉄道遺産」を展示、公開できるよう努めていければと思います。

【ふくい・あきひろ／熊本市西区】



2F 展示会場にて。左から副館長の宇都宮氏、小生、小澤氏、松本氏

住みたい田舎ランキング2020から人吉・球磨の未来を考える

その③



人吉市医師会 会長 岐部明廣

その①、その②の続きた。
さあ、人吉・球磨のみなさん、どうしたら若い世代が移住したい町になるか考えてみよう。

2020年2月号「田舎暮らしの本」(宝島社)が移住先選びに最適と銘打って「住みたい田舎ランキング2020」を発表した。これは人口10万以下の小さな町に限定のランキングだ。

【総合部門ランキング】

1位 大分県豊後高田市
2位 山梨県北杜市

3位 島根県飯南町
4位 大分県臼杵市
5位 兵庫県養父市

その①、その②では、第1位の大分県豊後高田市(95・19点)にスポットをあてた。今回は人口5000人以下では総合順位第1位(91・24点)、若者世代が住みたい田舎部門第2位の小さな町・島根県飯南町(総合部門ランキング第3位)にスポットをあててみたい。

人口4891人の小さな町だ。小さな町ながらUターン者が多いの

をうって人口減少がすすむだろう。飯南町で社会増があったかどうかは調査中。

では、小さな町・島根県飯南町の移住支援の対策は？

(1)教育面の充実

町営塾

大手予備校のサテライト授業を受けられる

待機児童ゼロ

(2)移住者支援の充実

13年間でUターン者300人

半農＋半職人(ミュージシャン、カメラマン、日本酒の蔵人など)

有機農業、農業研修、助成金18万円/月支援金

地域振興課の職員の人選

人口5000人未満なのに移住支

援の職員4人もいる。三万人都市なら24人に相当する。凄い。人吉市には、さて何人の移住支援の職員がいるのかな？

総合順位第1位(95・19点)の大分県豊後高田市の無料塾「学びの21世紀塾」もそうだったが、ここ島根県飯南町も町運営の塾があるのが特徴だ。そして町営塾で、大手予備校のサテライト授業を受けられるなど教育面が充実しているのが類似している。お金はかかりそう。

子育て世代の移住者(転勤・通学目的の転入者は除外)の増加対策として豊後高田市や島根県飯南町の自治体運営の塾を勉強・研究・検討する価値があるだろう。

「百聞は一見にしかず」

令和元年10月15日20時00分～21時

が特徴だ。昨年度の移住者(転勤・通学目的の転入者は除外)が54人だ。

財政力指数0・13で自主財源が非常に乏しく(球磨郡の球磨村、水上村と同程度)、借入金(地方債)も78億円と大きい(老婆心ながら返済がたいへんだろうなあと、つい心配する)。

過疎地域にかかわらず、移住者の人口比1%を達成している。凄い。

球磨郡の球磨村、水上村などの小さな町も参考になるはずだ。小さな町ほど若者世代が移住しないと雪崩

49分に放送された★NHKBS1の番組「あなたの隣の奇跡」地域を動かした人々の物語」が良い参考になる。

その番組の後半で豊後高田市の無料塾「学びの21世紀塾」や「移住・定住」の取り組みが紹介された。

その番組をCD-ROMに取り込んでみんなでみよう。

詳しいことは島根県飯南町地域振興課の大江さんに話を聞いてみよう。

その効果が出るのには何年もかかるので早急に何らかの手立てをすべきだろう。

人吉市は約1350人/年の転入者(移住者を含む)★残念ながら統計上、転入者と移住者の区別が人吉市の場合されてない)に對して、約1550人/年の転出者がいる。つまりその差、約200人/年



写真① 全景。左手は屋外トイレ

建築みてある記 ④3

八代市東陽石匠館をあるく

森山 学

八代市は石工の郷をテーマに、日本遺産に登録申請している。今回は二度目のチャレンジである。八代市内各地に石橋が多く残っているが、特に東陽町には多くの石橋が残る。この東陽町こそ、全国で石橋造りを手がけた種山石工のふるさとである。今回は球磨川流域を離れ、氷川流域の、この種山石工のふるさとを訪ねたい。

有佐駅前から種山行のバスに乗ると十四分でバス停「種山」に到着する。ちょうど河俣川が氷川に合流

するあたりで、東陽交流センターせせらぎや石橋公園がある。この石橋公園には重見橋が移設されている。今回めざすのは、石橋の技術や種山石工の活躍について学ぶことができる博物館、八代市東陽石匠館（写真①）である。石匠館へはバス停「種山」から徒歩八分。東陽町北（旧北種山村）に位置する。付近には名工・橋本勘五郎の生家や、種山石工の祖・林七が試作した鍛冶屋下橋、鍛冶屋自然石橋跡、鍛冶屋中橋、鍛冶屋上橋、大久保自然石橋がある。種山石工について学ぶには申し分のない聖地のような場所である。

第一回くまもとアートポリス推進賞を受賞しているこの建物を設計したのは、木島安史＋YAS都市研

が人吉市の社会減である。仮に社会減がゼロになれば、人吉市は総合部門ランキング10位以内にはいる点数（82・98点）になる。社会増を5年間（総計315人）

も継続している豊後高田市は驚異である。「住みたい田舎ベストランキング」でも移住者数・社会増を重視しているようだ。

脚注1：

豊後高田市の2018年の普通会計決算

単年度収支 7億7,400万円の黒字
経常収支比率 94.8%
積立金現在高 112億9,200万円
参考：借入金（地方債）185億円
参考：財政力指数 0.3

人吉市の普通会計決算

単年度収支 6,980万円の赤字
経常収支比率 100.8%
積立金現在高 5億7,000万円、
参考：借入金（地方債）140億円
参考：財政力指数 0.43

であり、豊後高田市に比べて財政状態が硬直していることが分かる。

自主財源がある人吉市のほうが財政力指数0.13ポイントも高いにもかかわらず、経常収支比率が100%以上と非常に高く、積立金現在高も非常に少ないのが気になる。

移住者の人口1%達成は、これからさらに拡大が予想される自然減（死亡数と出生数の差）を緩和させる効果を生む。

移住者の人口1%達成は30年後の人口減（30%以上）を10%以内に抑制できるという島根県立大学教授の藤山浩氏の試算である（参考文献・田園回帰1%戦略・農文協2015 その他論文

有り）。

人吉球磨10市町村にはそれぞれ何人の移住者がいるのかなあ？ 気になる。

それぞれ何人の若者世代が移住しているのかなあ？

私の提案だが、移住者支援の中に、就労支援を是非とも盛り込むべきだろう。

これなども市役所単独ではできない。

民間との綿密な話し合い・協力が必要なのはである。

職種にもよるが、仮に最低賃金1200～1300円/時を保障できる会社とネットワークを立ちあげて連携すれば、移住者の人口1%達成も夢ではない。とにかく民間の活力を利用すべきだ。

【きべ・あきひろ／人吉市】



写真③ 展示室。石壁の間のスリット窓と出入口

ころなどは、石と同様、自然素材の持ち味をそのままに生かそうとする思いをうかがうことができる。またその組み合わせは、展示室内にあ



写真④ カーブする屋根

る巨大な眼鏡橋の模型の輪石と支保工との関係のようである。外から屋根を見上げれば、円弧の壁の上に、優雅にカーブする屋根がのっている姿が美しい（写真④）。さてエントランスの右手にあるの

は、事務・喫茶エリアと多目的ホールである。事務・喫茶エリアの壁は小さな円で、それらが重なりあって間取りをつくる。多目的ホールの方は、波打つような曲線の壁、五枚で囲まれる。全体としては風車のようにあり、リズムカルである。壁と壁の間には出入口が設けられている。こちらの屋根もやはり丸太を架構してつくられている。エントランスホールの方は、天井の仕上げを、東陽町特産のしょうがを漉きこんだ和紙とし、照明も兼ねている。いったん外へ出てみよう。あらためて外観を見てみれば、建物が建つ高台の擁壁が石積みでつくられている。擁壁は層をなして、各層の天



写真② エントランスへ続く階段。正面は多目的ホール

研究所 計画・環境建築である。竣工したのは一九九四年。木島氏が急逝した二年後のことである。建築家、故・木島安史氏は一九七一年から一九九一年まで熊本大学で教鞭をとっていた。代表作の

一つが日本建築学会賞を受賞した球泉洞森林館（一九八四年）である。球磨村の球磨川に迫り出すドームの姿が、とても有名な建物である。このように、ポストモダンの時代に、独特の作風によって異彩を放った建築家である。さて石匠館はまさに、石橋の文化にふさわしく石を積み上げた力強い建築である。この石は地元で採石された凝灰岩である。中国湖北省から三人の石工を招き、碎石、加工、石積みまで共同で作業してつくり上げている。この積み上げた石の壁はコンクリートを打ち込むときの型枠として使用し、このときにコンクリートと一体化し、壁としての役割を果たすようになっている。

凝灰岩の切石を布積みした表情

は厳格である一方、壁自体が波打ち、曲線を描いているために柔らかな印象も与える。眼鏡橋のアーチの曲線が壁面に再解釈されたものであろう。入館する際には、この曲線に導かれるようにエントランスに向かう（写真②）。エントランスの左手にあるのが展示室「石工の里歴史資料館」である。この展示室は、円弧の壁でつくられる外側へふくらむ空間が六つ、花卉のように連なる。円弧の壁がぶつかり合うところに、ちょうど出入口やスリット状の細長い窓を設けている（写真③）。この壁の上にかかる屋根は木造である。松の丸太を三つ巴に組み、お互いにもたせかけるようにして安定させたドームである。丸太であると



写真⑦ 棚田風の広場は田園風景に向かって開く



写真⑧ 岩の上に架けられたアーチ

【もりやま・まなぶ／
高専教員、一級建築
士、八代市】

この土地の風土と自然と生業から、生まれるべくして生まれた建築は、この風景に溶け込み馴染んでいる。

「この土地の風土と自然と生業から、生まれるべくして生まれた建築は、この風景に溶け込み馴染んでいる。」

る。そこに輪石と支保工の小さなモニュメントが置かれている（写真⑦）。この広場の一部は既存の石積み擁壁

である。擁壁に埋もれている大きな岩の上にはアーチがかけられている（写真⑧）。その説明板には「農地造成の際、大きな岩を苦勞して取り除くよりもアーチを架けた方が、より簡単にその上に石積みを行うことができた」と種山



写真⑤ 石積みの擁壁と建物が一体となった風景

端には植栽が施されている。石積みの擁壁と建物は、一体となって風景をつくっている（写真⑤）。そしてその背景となっているのは、さまざま



写真⑥ 棚田風の広場から見た石匠館

まな樹種の林である。これはまさに東陽町の石積みの棚田そのものである。東陽町には日本の棚田百選に選定された二つの棚田もあり、また特産のしょうが畑に活用されていたりもする。

駐車場へと向かえば、棚田を縮小して再現したようなランドスケープデザインがある。野外劇場のような階段席によって囲まれた広場である（写真⑥）。階段席の一部は閉じずに周辺の田園風景へと開かれている。

くまがわの神さん仏さん 43

魅惑の新宮禅寺

——有難くて不思議な観音様——

宮原信晃

最近、うれしい話題が新聞に大きく広告されていた。「人吉・球磨風水・祈りの浄化町」という地域興しの団体のその中身だった。

ゾクゾクと来たのはたくさん

キャッチフレーズの中に「県内唯一3禅宗が存在する」というものだ。3禅宗は曹洞宗、臨済宗、そして黄檗宗のことなのだ。

その禅宗が3つもそろっていること

とが人吉球磨では「普通」であると思っていたことが

「普通」ではなかった。私の

認識の浅さに反省より先に、驚いた。

熊本県の文化財の8割が人吉球磨にあるといわれているが、3禅宗が他には

揃っていないのか！
不思議な幸せな気分になってきた。

曹洞宗、臨済宗、そして黄檗宗と並んだら、相良三十三観音とのコラボであろうから、意識が高まる。

よしよし、今回はその中で黄檗宗の「新宮禅寺」錦町に行ってみましょう。

錦町は「フルーツと剣豪の里」と聞いていたが、何の、三十三観音巡りで唯一、六観音が揃っている寺院なのだ。

本来、三十三の観音様に手を合わせてお参りするが、観音の働きを整理整頓すると、六つの観音様に集約する。たくさんある観音様の代表が六つの観音様なんである。常識的に普通は、こうだ。



新宮禅寺（球磨郡錦町）

- 一、聖観音 しょうくわんのん
- 二、十一面観音 じゅういちめんくわんのん
- 三、千手観音 せんじゆくわんのん
- 四、馬頭観音 ばとうくわんのん
- 五、准胝観音 じゆんでいくわんのん
- 六、如意輪観音 にょいりんくわんのん



新宮禅寺の六観音

仏さんや、神さんは、どうも常識とか普通の世界ではないからだろうか、摩訶不思議な現象が現存する。

この新宮禅寺の六観音堂に入ってみましょう。階段を登り、息をハアハアいわせながら、まずは一礼。手には数珠とお賽銭を忘れずに、さあ、参拝しましょう。

一番右から

・聖観音

・准胝観音

・馬頭観音

（阿弥陀如来）真ん中の仏様

・千手観音

・十一面観音

・子安観音……はあ？ 子安観音？ 子供を抱いた観音様？



子安観音？ 如意輪観音？

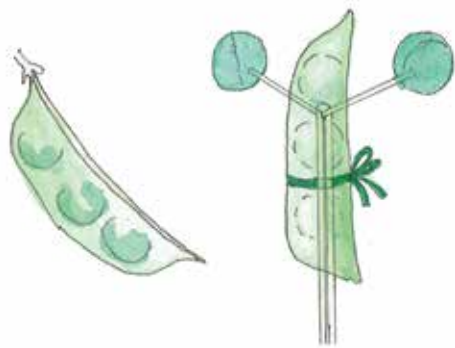
どう見ても、手が六本、右ひざを立て右手を頬にあてている？

「如意輪観音」様じゃありませんか？ 逆立ちしてみても、子供も抱かず、手は六本。

しかしである。この子安観音像はこの六観音の中で2番目に大隅の仏師回月が刻んだと大きく看板に記

おっとわっとあすび その38

絵と文／松舟博満



エンドウ豆の バンザイ

学校からもどつてあすび
ぎやあ行こうしおれば、母さ
んの「豆飯ばしてくるつで、エ
ンドウの殻ばむけ」て言わん

もんで、いつぺん（二緒）に殻
ばむいてしまゆれば、米ばと
いで飯のよういばしおしい
た。
豆飯にや塩ばちつと入れて
炊きおしいやいで、飯んしゃ
（おかず）もいらんごてえん
まかつたで、おらあ好きじゃつ
た。

殻と豆ばちつとずつオトシ
に詰めこうであすびぎや行け
ば、あすび場の堂さんの前ん
何人か集まつつたで「今夜
はおつぎやあは豆飯ぞお」て剥
いてきた殻と豆ば見せぶらか
しながら、バンサイ人形作り
じやつた。

生り口ん方ば下んして、先

いたら、ここからが、摩訶不思議。
「子安観音（如意輪観音）」と二つ
の仏さまの尊名が揭示してあるの
だ。

誰かが、いつの頃か、間違つた！
と浅学な私は思うほかに答えが浮
かばない。

今から、442年前に大隅に行つ
て刻んだ仏師回月に直接話を聞か
ないと、真実は解らないではないか。

謎が謎を呼んだ魅惑のミステ
リ。

またもや今夜も不眠の夜になり
そうです。

【みやはら・のぶあき／FBお地
蔵さん調査隊代表・人吉おおくま
座の会事務局】



「子安観音」（如意輪観音）の木札

私は初めて、この
子安観音様にお会い
した時に「あらら
左の石の子安観音様
の下に置くべき木札
を誤つて如意輪観音
様の下に置いたか、
如意輪観音様の木
札が紛失したとばい
ね」と簡単に思つて

載してある。

どういふこと。

その左には石造の子安観音様が
お子さんを抱いてすくと立つてお
られる。

その、明らかに子安観音様の前に
木札はなく、手が6本もある如意
輪観音様の下に「子安観世音菩薩」
と明記あり。

もう一度考えてみます。私の頭が
こんがらがっているのかも。

ここの2番目にできた子安観音
様は天正6年（1578年）に今
の鹿児島は大隅の仏師回月が刻ん
だ！

刻んだ仏師が間違つて、名称を
「子安観音」と明記して出荷する
の？



仲間の人たちが開いてくれた壮行会にて

水俣市での開催の予選会に出た。水前寺清子の「365歩のマーチ」を衣装も可愛く手と足も元氣よく動かし歌った。歌った後のインタビュに失敗した。自分の思い

しかし、この1、2か月皆の心が私がのど自慢に出るかもしれないとワクワクドキドキして盛り上がり皆が楽しみにしていたから町

【うえずぎ・よしの／ボランティア 観光バスガール、あさぎ町上】

京都、東京からの応援の声が届いた。
人吉球磨のボランティア仲間の人たちは「芳野ちゃんば絶対、本選に通してやるう」と皆で話し合い横断

幕まで作って頂き壮行会まで開いて頂いた。予選会というだけでこんなに盛り上がるなんて思ってもいなかった。

をうまく伝えられず古希の記念に祝賀会にも行かず、のど自慢にかけている事、母のいとこのヨシノさんの事も言えなかった。

の活性化にもなったと、あの活人から聞いた。
「そうか！そうなのか！よし、やるしかない！」。

娘に「こぎゃん大事おおごとになるて思わんじやった。もしつこけたら、どじゃんしゅうか」と言ったら娘は「サアそりやあ大変ばい、山にこもんないよ」と言った。

見事落選であった。山にこもろうと思ったが、落ちたのを喜んだのは古希の祝いに参加した同級生たちであった。予選会の帰り道に運転中の主人に愚痴をこぼして泣いてしまった。「もうのど自慢は見ろぐたるもなか」と。

今度からの作戦はやり方を変えて、こそと、あつちこつちの会場のNHKのど自慢に応募して、何とか通過して予選会に出られたら、こそと行って、誰にも言わずに挑戦せんばん。いつの日か出場できるまで人に言わずにせんばん。

水俣市での開催の予選会に出た。水前寺清子の「365歩のマーチ」を

のど自慢は見ろぐたるもなか」と。

私の出場を楽しみにしている人たちに感謝しながら、皆に笑顔と元氣を与えるために挑戦たい。



上杉芳野の「あがつ段」④5

いつかきっと

私の母も、母の姉妹も、若くして他界した。母の親戚は誰もいないものと思っていた。ところが母のいここにあたる人から一通の手紙が届いた。

「貴女のお母さんから昔手紙をもらいました。『私に子供が生まれ、その子にあなたのヨシノさんの名前をもらい芳野と名付けました』と書いてありました。貴女のお母さんと一緒に写った写真を今まで持っていました。これからは芳野さんが持つていた方がよいと思い送ります」と書かれ、白黒の一枚の写真が入っていた。ヨシノさんは今九十歳で

八代に住んでおられる。母が二十歳ぐらいの写真であった。

私が一歳二か月の時に他界し、顔も声も何の思い出もない私にとっては、この手紙と写真がどれほど嬉しかったことか。写真を胸にしつかり抱きしめ声を出して泣いてしまった。こうして書いていても涙が流れてくる。

高齢でもあり、すぐに八代にお礼方々面会に行った時、実母に会えた様に嬉しかった。その時「いつかNHKのど自慢に出て元氣な姿を見せてあげますね。だから生きてください」と言った。

ヨシノさんも大変喜ばれ「楽しみに待つとりますけんな」と言われた。今は病院に入院しておられ、体が弱っておられる。

さて、NHKのど自慢の申し込みである。八代会場、阿蘇会場に申し込んだが予選通過の通知は来ない。

しばらくして今度は水俣市で開催と聞いて直ぐに申し込みを出した。そうしたら予選に出られる通知が来た。

待ちに待った通知である。嬉しくて友人たちにそのことを話したら「芳野ちゃんのがのど自慢に出るげな」と話が広がり、大阪、

韓国「全州」訪問記 ①

チヨンジュ

李哲さんを救う会全国連絡会代表 宮崎 勇市

3日目（10月3日） 続き

中部市場で乗ったタクシー運転手に仁寺洞と行き先を告げたら、デモで中まで行けない、近くまでいいかと言われました。OKと返事して、仁寺洞の近くのパゴダ公園で降りました。それから先は解放区になっていて、車は通行止めになっていました。

日本のマスコミは、主に反文在寅派の動きに注目して、韓国の世論真っ二つと言っているようですが、私は違うと感じました。李哲の話聞いても、権力が集中している韓国検察を改革し民主化しようとしている人が

多いと感じます。私はせっかくこの広い通りを歩けるのだから「文在寅フアイト」という気持ちで歩いてきました。翌日は、同じような規模で文在寅大統領支持派の集会・デモが行われていました。

夜は「山村」というお坊さんが始めた山菜料理の店へ行きました。肉・魚は一つもない店で、メニューもコーラス料理二つだけ。テーブルに着くなりすぐ料理が出て来ました。おかみさんは、日本語が堪能で、キキョウの根や朝鮮人参や日本ではあまり見ない山菜などをいろいろと説明してく

シャトルバス乗り場へ。

ソウルから全州へシャトルバスで移動。3時間半の旅です。昔は中央分離帯が無く、上り下りで10車線の滑走路にも使える高速道路を走りまです。今は中央に低い壁が設けてあり

ます。バスが多いので、中央寄りの1車線はバス専用車線になっています。

昼に到着。全州では、高校で日本語を教えている先生・李東昌氏が待っていてくれました。金曜日なので早退して来てくれました。全州韓屋村



日本の京都を思わせる「全州韓屋村」



「南門市場」で



10月5日にあった民主派のデモ（李哲氏撮影）

れました。食べ終えたころ店内で韓国舞踊が披露されました。

4日目（10月4日）

歩行困難の徳さんはすっかり歩けるようになっていました。ホテルのコンビニで朝食を買い込み、タクシーで

にある民宿に案内されました。この民宿は李東昌氏の同級生が経営している韓国の昔の様式の建物で、2年前に建てたということでした。全州韓屋村は、昔の建物がたくさん集まっているところで、大変な観光地になっています。日本の京都を思わせるところで、レンタルの韓服を着て歩いている観光客がたくさんいました。私たちは荷物をおいて南門市場へ行きました。そこでイカキムチ・タコキムチ・チャンジャ・牡蠣キムチ・明太子などを買い、郵便局から送ることになりました。発泡スチロールの箱を買い、郵便局に向かいました。郵便局では発泡スチロールの箱ではなく、段ボールの箱に荷造りしてくれました。荷造りをしてくれるなんて日本と違うなあと感心したものでした。



「全州韓屋村」の伝統家屋（学校）



日本の居酒屋風の「マッコリの店」

私たちの疲れを察したのか、李東昌先生がタクシーを呼んでくれました。韓国ではスマホでタクシーを呼ぶと、呼んでいる人の位置がすぐわかるようで、たちどころにタクシーがやってきます。代行運転も出前もこの方式で住所や居場所を言わなくても対応してくれるようです。ソウルでタクシーが空車でも止まってくれなかったのは、スマホで呼ばれていたからではないかと妙に納得しました。その代わりタクシー運転手には名刺やパンフレットを見せると運転手はナビに入れてスタートします。

6日目（10月6日）

いよいよ帰る日になりました。バスやタクシーから通りを見てみると「NO 安倍」という旗がたくさん見えました。「NO JAPAN」ではなく「NO 安倍」でした。

日韓関係が悪化しているなか、韓国市民は私たち日本人に対してどうだろうと少しは思っていました。が、みんな友好的でした。一度も議論を吹きかけられることはありませんでした。いがみ合っても何もいいことが無い。交流するなかで理解し合い、友好を深めることが平和に繋がるのだということを実感した訪韓でした。

【みやぎき・ゆういち／球磨郡湯前町】



公州にある「城跡」で。（左端が李東昌先生、右端は崔鍾薫先生）



城跡ではお祭りをやっていた

公州には城跡があり、豊臣秀吉も攻めて来たと言っていました。ここは、市民の憩いの場になっっているようですが、この日はお祭りをやっていて大変賑わっていました。

夜は、李東昌先生の同僚で教頭先生の崔鍾薫先生も来てくれて、豚肉の焼肉で夕食です。メッチュとチャミスル（韓国の焼酎）で宴会です。盛り上がりました。チャミスルを飲みすぎて意識不明者（宮）が一人出ました。

5日目（10月5日）

この日は、もう一人自然科学の先生も加わり、8人で車2台で崔鍾薫先生の故郷・公州へ向かいました。崔鍾薫先生はホンダのシビックに乗り、ソフトバンクホークスの試合も福岡に見に行くという日本最良の方です。

お祭り会場の近くの中華の店でチャンポンやじゃじゃ麺とメッチュで昼食をとりました。辛いけど美味しい麺でした。

全州に戻り、韓屋村を回ってみましたが、さすがに5日目となると疲れも出て来ます。少し休んで、全州マッコリの店へ。日本の居酒屋風の店で、まあ賑やかなこと。普通に喋っても聞こえませんか。店全体が大きな声で喋っているのです。「こうでなくちや、盛り上がらないんだ」と李東昌先生。料理の量も多く、イェダコの活きたのをトングで持って来て、缺で細かく切ってくれて、動いているタコを刺身で食べますが、頬つべたの裏にくっ付いてしまいます。マッコリは薬缶に入れて出て来ました。マッコリの上澄み（陶陶酒）と所謂マッコリが別々に運ばれてきます。

追悼

故板井優弁護士を偲ぶ

一人の千歩より千人の一步

緒方雅子

川辺川で計画されたダムの利水を巡る訴訟で弁護団長を務め、逆転勝訴に導いた弁護士いとう けんたろうの板井優さんが2月11日、腎不全のため熊本市の病院で逝去された。70歳、那覇市出身。

板井優さんのプロフィール

1979年弁護士登録。川辺川ダムを水源とする農林水産省の土地改良事業の是非を争った川辺川利水訴訟で2003年、農家側の訴えを退けた二審判決を覆す逆転勝訴判決を勝ち取った。ダム計画は08年に熊本県知事が「白紙撤回」を表明、事業は休止している。熊本地裁が1987年に国や熊本県の行政責任を初めて認めた水俣病第3次訴訟では弁護団事務局長を務め、ハンセン病国賠訴訟など多くの集団訴訟に携わったほか、「原発なくそう！九州玄海・川内訴訟弁護団」の共同代表も務めた。

今年一月十二日、人吉市東西コミセンで毎年恒例の「川辺川利水訴訟原告団」主催の新年会があった。受け付けをしていると板井八重子先生の姿を見かけた。

「あら優先生は？」と尋ねると「後ろに居ますよ」と言われ、私がキョロキョロ見回すと、白ひげをたくわえた優先生が立つておられた。「わー先生、仙人のごたる、カッコイイ」と思わず抱きつくと、いつものように大きな口を開け、カッカッカード笑われたが、その音量は小さかった。

それから一ヶ月もせぬうちに悲報を聞くとは…。先生早すぎます。悲しいです。まだ川辺川もくすぶつていますよ。瀬戸石ダムの撤去までは生きて欲しかった。立野・石木・路木もダムなし治水推進派のヒーローを失い、

どうしたらいいのでしょうか。

私は球磨川水害被災者として実家の嵩上げ工事の件で、国交省との間で書類上の不正なからくりがあった際、先生に助けを求めた。先生はすぐ所長を事務所呼びつけ「君たちは利水だけでは懲りずに、また嵩上げでもバカをやるのか！」と怒鳴りつけられた。お陰で漆口地区の嵩上げ工事はスムーズに行われることが出来た。またその後、末期ガンの夫や突然死した長男を亡くした時、先生はそと寄って来て「大丈夫か、君なら大丈夫だね」と声をかけられ、私は「大丈夫です」と涙声で空威張りて答えた。先生は「優」という名前の通り、優しい方だった。

先生の残した言葉、「一人の千歩より千人の一步」の言を噛みしめて、これからも生きてまいります。

あの世では、梅山突さんやひげの毛利さんなどと酒盛りをして、「カチャーシー」を踊っていてください。おつけ私ドンも追っきますケン。ジャッデ、ホンナコテ待つててハイヨ。先生、ダンダンナー。

【おがた・まさこ／八代市】



板井先生（右）60歳のお祝い会にて漁協関係で頑張った故・毛利正二さん（左）と。この後カチャーシーを踊られた

水俣、川辺―板井優さんと私

緒方俊一郎

板井優さんと初めて会ったのは水俣病裁判に関して、問題の解決に向けて県内の市町村議会に水俣病事件解決の決議を要請するために、相良村を訪ねてこられた時でした。板井さんが水俣病裁判にかかわっている事は知っていました。お会いした事はありませんでした。当時の相良村議長に案内された板井さんは恰幅が良く、エネルギーに戦う弁護士という印象でした。

それまでも水俣病裁判で活躍されている事は知っていました。板井さんの著書「裁判を住民と共に」①に1969年6月、水俣病第一次訴訟が提訴され、原告団長渡辺栄蔵さんが裁判に臨んで、熊本地裁の広場で「今日、只今より国家権力と対峙します」との決意を述べた事が書いてあります。その場所に同席していたので、その言葉が私も直に聞いていたのですが、そのときには面識もなく、それ以後も長くお会いする機会もありませんでした。その後、1970年、原告団は一株株主

運動で大阪の株主総会に乗り込んだ時、私は患者さんの健康管理目的で随行しました。

板井さんは1986年より水俣に住んで、水俣病国家賠償訴訟を始め多くの裁判・法律問題に取り組み、奥様の八重子さんは医師として水俣病患者の検診・治療に当られ、ご夫婦で水俣病問題の解決に力を注いでこられました。

その間私も原田正純先生を訪ね、熊本大学の学生や全国各地から集まってきた若者等と共に水俣病の学習や調査などに参加してきました。一方で地元相良村の住民の診療、健康管理について、水俣病から学んだ環境問題に関心を持ち、例えばゴルフ場建設についての反対運動などに参加しました。そこから出発して、当時進みつつあった川辺川ダムが地域の環境に影響あたえる勉強し、1989年に『清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域都市民の会（手渡す会）』の基になる集会に参加し、ダムは自然破壊で、地域住民の健康や、地域の破壊につながる事を学びました。

板井さんは「脱ダムへの道のり」②の序文に、「川辺川・

球磨川はまさにその清流ゆえに流域住民に愛され、『宝の川』とされてきた。また、この清流の水を飲み、泳いだ経験や尺鮎をはじめとする豊かな川の恵み、山・川・海につながる豊かな環境と魚介類がこよなく愛されてきたのである。まさに、漁民や農民、住民の戦いの原点はここにあるといつてよい。」と述べています。

手渡す会とは別に多目的ダムのもう一つの目的とされた川辺川利水事業が受益農家の負担になることがわかってきました。



農水相上告断念を祝う（土肥勲嗣氏提供）

1993年12月、原告団長の梅山究氏の家に集まって板井さんから説明を聞き、提訴する事になりました。国の利水事業に異議を感じている農家をすべて結集し、原告団を結成しその手続きを協議しまし

た。それまで農民（地域の住民）は官（行政）に対して一般に物を言うことはなかったが、農水省をはじめ行政側が水代はタダだと説明をして利水事業を強行することが明らかになりました。これに対してダムの水はいらないと言う農民の声を集めて農水省に突きつける具体的な戦術を板井さんに指導してもらいました。

結果として、利水裁判が福岡高裁で勝利判決を得たことが引き金になって川辺川ダム建設の中止に至りました。板井さんは「住民こそが主人公」というだけで戦いを勝利できたわけではありません。まさに、流域住民が自らの問題として立ち上がり闘う中にこそ勝利の秘密が隠されているのです。（中略）住民が主人公になるには情報が必要です。（中略）憲法上は国民主権であるが、実態は江戸時代と同様「寄らしむべし、知らしむべからず」という論理が支配しています。

参考

- ①「裁判を住民と共に」『ヤナワラバー弁護士奮闘記』（熊本日新聞社）
- ②「脱ダムへの道のり」『こうして住民は川辺川ダムを止めた！』（熊本出版文化会館）

柳人があじわう漱石俳句

— (48) —

いわさき楊子



髭

今年の2月9日、草枕交流会館（玉名市天水町）にて開催された「原風景で読み解く『草枕』」第5章に参加した。地域の方々の朗読と村田由美氏（同館長）の講話を楽しんだ。第5章では江戸弁の床屋の親方との会話が軽快に書かれている。

「おい、もう少し、石鹸を塗ってくれないか、痛くて、いけない」

「痛うがすかい。私や痲性でね、どうも、こうやって逆剃をかけた、一本一本髭の穴を掘らなくっちゃ、気が済まねえんだから、——中略——我慢おしなせえ」

「我慢は先から、もうだいぶしたよ。御願だから、もう少し湯が石鹸をつけとくれ」

「我慢しきれねえかね。そんなに痛かあねえはずだが。全体、髭があんまり、延び過ぎてるんだ」

——中略——

「おい、もう二遍石鹸をつけてくれないか。また痛くなつて来た」

「よく痛くなる髭だね。髭が硬過ぎるからだ。」

——後略——

にされました。

本年（2020）1月12日に毎年行っている新年学習講演会を開催しました。今年は綿密な取材問題点を明らかにし、ダム建設阻止に大きな貢献をされた元毎日新聞の記者・福岡賢正氏に『国が壊す理由』を人吉市東西コミセンで講演いただきました。その会場で奥様に付き添われてお出でくださったことに感動しました。過去にお会いした姿からは想像もつかないほど衰弱されていたので、心身のご負担を心配したものでした。

毎年の新年学習会や川辺川現地調査を始め機会あるごとに理路整然と、説得力のある話を聞かせてもらっていました。弁護士として大きな事件をいくつも勝利に導かれたこと、太平洋戦争で筆舌につくし難い経験をした沖繩出身で、酒が入るとにぎやかな踊りを披露し、一緒に踊れと誘っていた明るい宴席の事も懐かしい思い出です。板井さんの最期を含め、その生き様に深く敬意を捧げ、板井優さんと出会えたことを幸せに思います。

【おがた・しゅんいちろう／相良村】

私論だが、この床屋のくだりは熊本ではなく東京での経験をもとにした創作だと推測する。

俗俳や床屋の卓に奇なる梅

漱石32歳

この句は本誌20号にも掲げた。床屋で交される世間話が想像できる。不自然にねじ曲げられた枝ぶりの梅の盆栽との取り合わせがおかしみを誘う。

秋晴に病間あるや髭を剃る

漱石43歳

行く春や知らざるひまに頬の髭

漱石47歳

鶯や髪剃あてゝ貰ひ居る

漱石47歳

後年に詠まれたこれらの句を読むと、胃を悪くして体調をくずした漱石は髭を剃ることを安らぎとしているようにみえる。残された漱石の写真の髭は『草枕』（第5章にあるようにどれもゴワゴワと硬い。

剛毛の男やわらかい小指

鯨髭とわる最終局面へ

【いわさき・ようこ／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

お休みどころ通信 ⑬

1月の日記より

精神科医 興野康也

1月21日(火)

養護教諭の方たちの勉強会で発達症の二次障害の支援についてお話させていただいた(芦北・水俣学校保健会養護教諭等研修会)。熱心な方が多く、質問もたくさん出てうれしかった。

学校は教育を行うところなのだが、医療的な支援とも無縁ではいられなくなっている。発達症の子どもたちが非常に増えていることを考えると、将来は教育プログラムそのもののなかに、対人交流の仕方や、ストレス対処、SOSの出し方などを入れこまないといけないのではないかと思う。

1月22日(水)

熊本南病院の「難病サロンみなみ」に参加した。難病を持つ方の家族の集まりで、支援の専門職の方と話し合える。主にALSなどの神経難病のご家族が多かったが、精神疾患のケアとは違った苦労があるのだとわかった。精神疾患の場合には対人関係・就労・金銭管理といった生活面に影響が出ることが多く、生活支援をどうしていくかが家族の悩まれるポイントだ。

一方ALSでは認知面の問題はな いままに体が動かなくなるので、呼吸機能の低下とともに痰の吸引などの身体面のケアが必要になる。家族



家族で人吉市五日町にある「おでんや まま家」に。友人のラッセル光子さんが1月に開店。お茶室のような感じで、小さいけど別世界です。

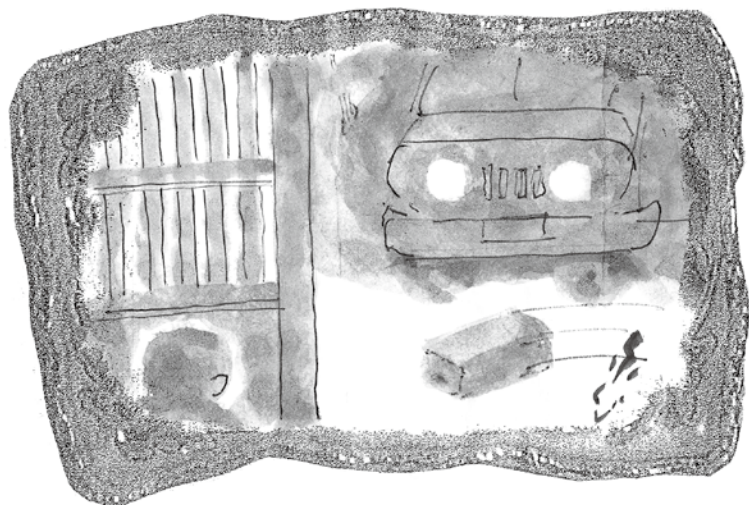
【おきの・やすなり／人吉市】

は夜も2時間おきに起きて吸引するのが大変とのことだった。また地方になると訪問看護ステーションなどの支援者の不足もあり、ご家族の負担が大きくなっているようだ。疾患ごとに困る内容も違い、支援の在り方も違っているので、制度化するのが難しい面があるのだろう。

記憶の落ち穂

その ④7

絵と文／坂本福治



いたずら盛り

小学二、三年頃か、私が住んだ平壤には、チンチン電車が走っていた。誰に教えられたか思い出せないが、線路に数センチの釘を置いておくと、電車が通過したあと、青竜刀のような形に変身する。その形を楽しんだ。ところがある日、首ねっこをガンとつかむ力を感じた。電車関係の職員だったのだ。即刻、この遊びは卒業した。

終戦後の小学三年の時、敵だったソ連に、何とかして仕返したい気持ちがあった。ある薄暗くなった夕方、ソ連軍のジープが接近して来るのがわかった。そこで思いつき、ジープの直前にレンガを放り投げた。ジープの混乱を狙ったのである。ジープは急停止して、数人の兵士が降りはじめ、近くの家の玄関をガラガラトンと開けては怒鳴り、開けては怒鳴った。私は自宅に逃げてはまずいと考え、向かいの家の戸の裏にしゃがんだ。ソ連兵は何軒か当たったが、諦めて去った。何とも危ないことをしたものだ。奥の部屋では老夫婦が何も気づかず、語りあっていた。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

漢和字典は面白い

31

鶴上寛治

良

対意語は「悪」？ 意味はへよ

い・すぐれている・まさっている・

まことに・やや・てがら・おつとく、

字形は《穀物の中から特に良い

ものだけを選びだすための器具の

象形》だそう。良人（おつと）・良町（ややま

ち）・無印良品・良民（賤民に対し、道徳的な良

悪とは無関係）。これを旁に持つ浪・狼・糧・跟・

良はどうだろう。良い獣（オオカミ）？ 跟はよ

ろめいており、そんな足許を良とはいえまい。糧

—— あればいい。その質は問わない。良は健康にとつ

て良い草とはいえまい。浪——放浪・浪人を好ま

しいと言えるかどうか。ウーム？首を捻りたくな

る。妻が良人（おつと・夫）に殺される事件もある。

「良い人」ではなかったのだ。騙されていたのだ。

底

音はテイで、訓読みはへそ

い。英語では“base”なので

明治にこれが導入された時は

base ballを「底球」と訳して

いた。そこにtennisが到来。

これを「庭球」と訳したため、それと混同し

ないように「野球」と改めた。限りなく広が

る野原で…外野を越えた打球はどこまでも転

がる—打者がダイヤモンドを2周すれば2点

3周すれば3点—まさか？ しかし雰囲気

よく表した名訳。いまは「屋根球」か？ ドー

ムとか人工芝などは選手の健康にとってプラス

なのかマイナスなのか気になる。球団・リーグ・

親会社・情報関係者の利益のためなのか？ そ

れとも観衆のためなのか？

せきれい
鶴鶴短歌会

二月詠草

まだ堅い梅の蕾も赤くなり冬の陽射しに脹らみ始む
哀しみにうちひしがれし斎場に花にうまれし笑顔の遺影

守永 和久

二十年ぶりに再会せし友は変らぬ笑顔で昔のままに
寒風について牛乳宅配す待ち居る笑顔に感謝を込めて

河内 徹夫

「飲むほどに旨さが増す」と酔ひてゐし夫は酒断ち早や十五年
日当たりの庭に自生の菜の花は節分の今日満開に揺る

中村美喜子

バッテリーを次々凡打に仕留めゆく味方ナインの声援在りて
古書店で偶然取りたる文庫本意図に違えず未到の道へ

西 武喜

病院の診察券など処分せり忘れ行くか夫の三回忌
暖冬でメジロ五六羽遊び来る梅の古木に春はそこまで

釜田 操

寒強く春の訪れまだまだと夜のご膳に落の臺載す
この頃は部屋にこもりし日々なれど梅の香りに誘われ庭に

三原 光代

返納し歩け歩けと思へども移動はついつい車に頼り
朝夕の寒暖の差補って重ね着したればつまづき多く

中原 康子

厳冬の川面にばつんと炬燵舟再生なるや球磨川下り
日が昇りシラサギ、カワウ群れなして朝餉終へしや河原に並び

橋詰 了一

ひむがしの山の端茜に澄みとほり西に満月如月の朝
星の降る夜の河原の瀬の音はも春待つ大地の詩と聞こゆる

令和二年NHK全国短歌大会入選作品 堀田 英雄

倉敷便り

38

絵と文／原田 正史

倉敷の言葉

私は倉敷市に転居した当初から、言葉で困ることは全くありませんでした。もちろん球磨弁が出ないようにならざるを得ない標準語で話しました。標準語といっても私の標準語は、かなり怪しげなものなのですが、東京でも十分通用しますから、捨てたものではないと思っています。

倉敷の言葉は、数少ない格別な言葉を除いて、その殆どを他地方の人でも十分理解できます。すなわち倉敷の言葉は洗練された上品な言葉だといえるでしょう。ところが倉敷の殆

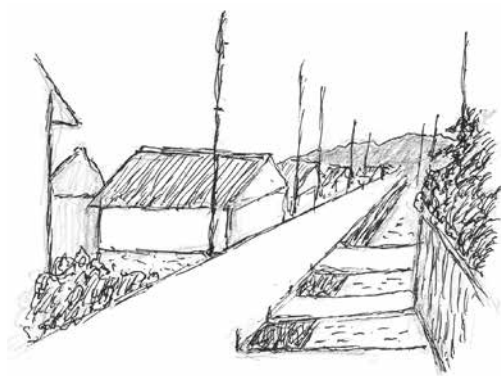
どの人が、倉敷の言葉は汚いと勘違いされているのです。標準語も江戸方言に過ぎないので、胸を張って倉敷言葉を使いまくって頂きたいものだと思います。

ところで倉敷言葉の中で特に目立つのは「じゃ」という言葉です。中国地方の新聞の一つである岡山市の山陽新聞に、「方言ばあじあ」（方言ばかり）という欄があり、そこに倉敷市の主婦である大熊純子さん（54）の文章が掲載されていました。方言で記述されており、大変参考になるので、全文を転記しておくことにします。

「今から30年前の1月28日に、私

と夫は結婚したんじゃ。へえで（それで）私やあ新婚旅行でオーストラリアに行ったんじゃ。シドニーやメルボルンやこう行つて、でれえ（すごく）楽しかったんを覚えとる。そんな時にセーターをお土産に買ったんじゃ。へえでも（それでも）日本に着いてみりやあ、ぼつ（大変）膨らんで見えて、どうにも着こなせずにタンスにしまいこんどつた。今まで何べんも、もう着のんなら古着屋さんに売りに行こうかと思つたんじゃけど、思い出の詰まったセーターを手放すんは、やっぱりできんかったんじゃ。

こねえだと思つてそのセーターを着てみたら、がたい（体つき）がよくなつたおかげで、何かしつくりくるんじゃ。こりやあええ思つて着るようしたんじゃ。友達にも『よう似合（にあ）うとるよ』て言つてもらえて喜んで



倉敷市帯高地区の風景

んじゃ。30年たつて着こなせるようになるたあ思つてもみんかつたわ。今、オーストラリアは森林火災で大変じゃけど、早う収まるように祈りよんじゃ」

でした。念のために注記を挿入しましたが、注記なしでも十分に理解いただけるものと思います。

倉敷言葉の特徴の一つは、男女の言葉に殆ど差異が認められないということ。更に年下の者と目上に対する上下関係も存在しません。昔の球磨弁にみられた「有難う申し上げ、申し上げ申す」と言うような対面する相手に対して徹底的にへり下る言葉の存在を知られたら、倉敷の人達はさぞかし驚かれることでしょう。

ところでこの「じゃ」言葉、すなわち倉敷言葉が倉敷だけではなく、周辺地域にも広がっているかどうかは、地元の人にとつてはどうでも良いことですが、言葉の分布状況から地域の歴史を追究しようと思つて、いる私にとっては、大変重要な事です。幸いなことに最近、倉敷市の東側に隣接する岡山市に行く機会がありました。その場所は、岡山市の中心部から北に位置する瀬戸大橋温泉

「やま幸」と呼ばれる温泉を主体とした大型の娯楽施設です。さつそく入館料を支払つて中に入り休憩室を見回すと、中央に4〜5人のおばちゃん達のグループがおられ、盛んにしゃべりまくつておられました。話の内容は「あそこの店は8時までに行くと2割引だよ」といったような買い物情報交換です。話し言葉の末尾がどうなのか注意して聞いていると、末尾は「じゃ」ではなく「なあ」でした。この事実によつて倉敷言葉、すなわち「じゃ」は倉敷だけに限定されたものである事が明らかになったのです。更に最近になつて倉敷の北側に隣接する総社市から介護職の研修のために若い女性の方が、介護施設オリーブガーデンに來られました。さつそく総社市の言葉についてお聞きしたら、総社でも「じゃ」言葉は存在

建国記念の日 (けんこくきねんのひ) 「春一行事」

【季語の説明】

2月11日の祝日で、「建国をしのび、国を愛する心を養う日」。明治時代、神武天皇(初代天皇)即位の初日を日本の紀元(歴史が始まる最初の日)としたことから始まる。「建国記念日」ではなく「記念の日」なのは、建国された日とは関係なく、単に建国されたということ念を記念する日であるという考えによる。

白魚 (しらうお 《しらうを》) 「春一動物」

【季語の説明】

体長は5から10cmで、新鮮であればあるほど透き通っている。死後時間の経過と共に白っぽくなる。その様子から「白魚」という名称が付けられた。生後一年たつと海から河口に入って産卵し、淡水の混じる沿岸域や汽水湖に棲息している。背びれと尾びれの間に脂ひれがあり、頭が尖っているのが特徴である。

落の臺 (ふきのとう 《ふきのたう》) 「春一植物」

【季語の説明】

日本原産の山菜で全国の山野に自生して、早春、いち早く地中から萌黄色の花茎を出し、春の訪れを告げる植物。外側の大きな鱗のような濃赤紫色の葉で幾重にも包まれている。この部位が落の臺である。日本料理には欠かせない山菜の食材で、ほろ苦風味があり、落味噌や天麩羅などに使われる。

岩永静代

●

玄米をしつかり噛むや建国日

【永田満徳評】

「紀元節」が「建国記念の日」になったものとして心から祝えない人もいる。掲句は玄米食に日本人のアイデンティティを暗示していて、本来の意味での、日本の建国を祝う気持ち表現されて、共感できる。

北野和良

●

白魚の光に透けて曇りなし

【永田満徳評】

「白魚」は生きているうちは半透明だが、蒸したり煮たりすると真っ白になる。掲句は「光に透けて曇りなし」とは当たり前のようなが、「曇りなし」という措辞によって、白魚が的確に捉えられている。

十河智

●

落の臺どんな大人になるだらう

【永田満徳評】

「落の臺」は新葉が出る前の卵の形は愛らしい。しかし、花がほうけると、見る影もなくなる。掲句は落の臺の生長の代わり様から、予想だにできない幼児の成長を思い遣ったもので、その取合せがいい。

【ながた・みつり／俳人協会会員、熊本市】

するものの、通常の会話では、語尾を引き伸ばす傾向が強いとの事でした。すなわち「そーなあー」とか「いやんやろー」といったようにもののだそうです。岡山市ばかりではなく総社市のこのような事実によって倉敷言葉が倉敷だけに限定された方言である事が明らかになると共に、岡山県下の各地域ごとに、それぞれ特有の方言が存在しており、岡山言葉というような普遍的、統一的な言葉は存在しないと断定されます。このことは岡山県が明治になって、それ以前のいくつかの国を統合して造られた事に起因するといえます。国は無くしても、それぞれの国に存在した、いわゆるお国言葉までを消し去ることは出来ないからです。

ところが図書館や書店に行くところ、存在しないはずの岡山言葉という記

述が見られる本が見受けられます。この事実からすれば、岡山県では本格的な言語学的研究は行われていないのではないかとさえ思いたくなりまします。もし、そうであるのなら、ささやかな研究ながら、私が岡山県におけるこの分野での先駆けをなしたことになるのですが、どうもそのようではない様に思われます。やはり岡山言葉という存在しない記述をする人達の勉強不足に起因することだと言えそうです。

「その格好、ふうがわりいの」
（その格好、恥ずかしいぞ）
倉敷は江戸時代には天領、すなわち幕府の直轄地であり、代官所が置かれました。ところが、その取り扱う年貢は60万石となり、その仕事は大変なものとなったのです。このことを嫌った代官所は、仕事の一切を町人に任せたりばかりではなく、倉敷の行政も町人に任せたりです。これによって倉が建ち並ぶ土地が出現したのですが、同時に武士を頂点とする上下関係のある言葉ではなく、極めて穏やかな優しい倉敷言葉が出現したのです。いつの日にか、倉敷にお出でいただき、店の人に「その格好、ふうがわりいの」と言って、驚かせて欲しいものです。

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】

年念し
450誕生
記書

小説・相良清兵衛

27

山口啓二

深夜に京の都を中心起こった大地震の朝早く、朝鮮からの帰国命令が出て朝鮮での弁明を伝えるに京都にいた加藤清正は早速、頼房公、頼兄等と共に伏見城へ駆け付け秀吉や北の政所、側室や侍女を救出。その場で大声で朝鮮での自分の功績を申し上げ、その後の警護にあたった。そこには勿論頼蔵も帯同していた。

「清正、この大地震の折にお主にはなんともいい運が付きまとう事よ。う。おお、そちは相良ではござらぬか、息災でなにより。さて、あれから数年経つが、随分と遅くなったのう。そういえば宗芳も逝つてしまつたそうじゃなあ。我が連歌の師と崇めておつたのじゃが、なんとも惜しいことじゃ」

「はは、殿下にはこの度のご災難、心よりお見舞い申し上げます。さすれば八代でお会いしてもうすでに七年は過ぎ申しましたかと、お久しぶりにございます。ときに我ら朝鮮では清正殿とともに殿下の仰せの如く必死に戦つて参りました。されどこの度の清正殿への謂われはごも腑に落ちませぬが」

ろにございまする」

「それはつらい想いをさせたな。そうじゃ、そちには清兵衛という名もあったのう。清正の一字が入つておるではないか。いい名じゃ。のう清正」

頼蔵は秀吉公が頼兄だけを話題にあげるの、なんともそれが羨ましく、疎ましかった。

復興にかかわり二ヶ月ほどたつた九月中旬、頼房公ら京都伏見に居た相良勢は郷里人吉に向け出発、十月半ばによく帰城した。ところがこの時同行していた相良頼蔵一派は、

■主な登場人物

相良清兵衛（軍七・頼兄）＝相良家 元家老
深水宗芳＝相良氏の家老
相良頼蔵（深水頼蔵）＝相良氏の家臣
相良頼房（長每）＝相良家 第20代当主

上陸した佐敷から清正を慕い熊本に行つて脱藩してしまつた。朝鮮での連戦の折りにも、行長と清正と同じように頼兄と頼蔵の関係は破局にあつたのだ。頼蔵の実父深水織部帯刀もそれを知り出奔し、佐敷に身を潜めていた。ここ佐敷は深水宗芳・織部兄弟所縁の地で、縁者達が織部に加担、殿に反旗を翻す行動が見られた。そこで頼房公は深水一族を反逆者として頼兄に命

【前回までのあらすじ】「流罪」という裁きを受けた清兵衛は、弘前藩津軽家へお預けの身となつてた。弘前藩主・信義公は昔話をしきりに聞いてきて、五十年以上も前の朝鮮出陣の話や文禄五年に畿内二円を襲つた未曾有の巨大地震の話にも及んでいた。

「そちの言い分あいわかつた。なあに鎌足公以来の血筋には叶わぬわ。この件はこれまでにしたそうぞ。おお、そこに居るのは軍七ではないか。更に遅くなつたものよのう。朝鮮でのそちの活躍、治部や兵庫からさんさん聞かされておつたぞ」
「お久しぶりにござりまする太閤殿下。益々のご健勝、恐悦至極に御座りまする」

「おお。そう言えばそちも嫁をめぐり子が出来たそうではないか。そういえば、そちも由緒ある相良の姓を戴いておるそうだな。相良兵部頼兄と申すのか。なんとも良い名じゃ」
「有り難きお言葉、頼兄益々もつて奮闘申し上げます。妻は先ごろ流行り病で亡くなりもうした。殿のご意向によりこのまま又球磨へ戻り、領地を守り亡き妻の供養をするところ

じてこれを討たせ、深水帯刀をはじめ一族七十三人が殺された。深水一族は頼蔵一派を残し滅亡する事態となつた。

これでようやく泰平の世が来るかと安堵してたところ、そのすぐあとに伏見で朝鮮使と話し合いを持った関白秀吉がその和議内容に激怒、再度朝鮮出兵の命令が下つた。対馬・宗義智が策略した工作が裏目に出たのであつた。頼房公を先頭に頼兄らは十二月の末にまた人吉を離れ朝鮮に向かう事となる。これが「慶長の役」と呼ばれる戦いである。この戦いは以前にも増して厳しいせめぎ合いとなつた。

相良軍はこの折、最初清正に従つて西正浦に居たが、その後すぐに黒田官兵衛の嫡男・長政を大将とする第三軍に属することになった。頼蔵と頼兄、更に頼房公との不仲を気にして、清正が忖度したのだつた。もちろん頼蔵は清正に就いていた。黒田長政の第三軍にはのちに頼房公の室となるいく殿の兄、秋月種長と高橋元種の二人も軍を率いて参戦していたのだつた。この時に縁談が整つたのである。

清正と行長は未だに反発しあうどころか、今度は相良家を代理戦争に巻き込む形となつた。頼蔵は清正に対し、我が父はじめ深水一族が滅亡したのは頼兄の陰謀によるもの、と訴えた。これを聞いた行長は朝鮮奉行石田三成に報告、三成

は直ちに頼兄を呼び出した。

「頼兄殿、こうやって二人で会うのは八代以来じゃのう。八代で拙者の馬の前に立つて歎願たんがんなされてから既に七年にもなるか、いい若武者になられた。あの頃の忠義はいまも変わりござらぬであらうよ」

「御意にございます。拙者ただただ主君頼房公への忠義のみ。なんの腹心もござりませぬ」

「左様でござるうて。小西殿はもちろん、加藤殿も貴殿には一目置かれておるゆえ、拙者としても異存はないのだが。そこはそれ、加藤殿と小西殿のなあ」

「実は深水一族討伐の件は我が主君頼房殿のご命令でございます。それが証拠にこれの通り書状を戴いておりますれば、拙者が自ら私恨を持つて事に当つたのでは毛頭もうとうござらぬ」

と申し開きをしたので、更に頼房公を呼び尋ねられたが意見は一致し、ようやく頼兄の真意が通じた。

頼蔵はその後清正の軍に付き、のちの蔚山の戦いであつてなく戦死した。

「いやあなるほど、そこまで対立なされたのか。大儀な事よのう。思い出したくもないと仰せられたがいかにも。されど

清兵衛本然は五十年以上も前の出来事を昨日のことのように話し始めた。

先君義陽公を響野原で失つてからの相良軍は島津の軍門に下り、先ずは甲斐と密約を交わしていた肥前の龍造寺攻めに始まつた。相良軍三百を先鋒とした薩軍三千は、五万の大軍の龍造寺をも秘策『釣り野伏せ』で見事落としたのだ。この戦いには若い軍七は加わつてはいなかったが、龍造寺は阿蘇攻略の上でどうしても倒しておきたい存在であつた。その後の阿蘇攻めで若き武將軍七の誕生となる。

島津は、豊後大友攻めの前哨戦として阿蘇周辺の甲斐一族を攻撃することに決めていた。そのうち相良軍は、常に島津の先鋒にされて戦うことになつて行く。

響野原で戦死した義陽公の跡目を継いだ十九代忠房公世襲の折は、島津義久の策略もあり世継ぎ問題に紛糾したが、相良一門の知恵でなんとかしのいだ。その忠房公はわずか三年余りで数え十四歳の若さで亡くなられた。

二十代目は出水に質となつていた次男の四郎次郎君が相良家の後を継ぐ事となった。これには島津も異存なく、これにより三男の四郎三郎藤千代君が名を『長誠ながさだ』と改め島津の質となつて出

忘れることも出来ぬであらうよのう」

信義公は更に数日後の昼を過ぎた頃にまた寄られ、この日は他に津軽家老臣の大道寺隼人と松野大学も同席していた。清兵衛本然たちが弘前へ護送の際に世話になつていた家臣だ。

「本然殿、如何ですかのう。戦のない時代を迎え、すでに長い月日が過ぎ申した。今日は清兵衛本然殿の思い出に残る若い頃の武勇伝など聞かせてはもらえぬか」

「ほう、拙者の若き頃の話にござるか。そうよのう。相良家が島津義久公の軍門に下り、阿蘇高森や豊後大友を攻め入りました時にございましょや」

そう言われて本然は、ここぞとばかりに得意になつて語り始めた。

「おう、それこそ薩摩が九州全土を我が物にとせんとする戦いにござるな」

「左様にござる。なかでも父休矣と、あの頃お慕いしておつたが戦死なされた当時の筆頭家老の御息、そう、前にもお話しした深水摂津介殿との思い出が一番ですなあ。相良家を担い、将来を約束されていた方でしたが、残念なことに若くして亡くなられた。拙者その頃まだ軍七と名乗つておりましてのう。ちょうど十七になつたばかりの頃ですか」

水へ向かわれた。まだ八歳であつた。四郎次郎君は『頼房よりふさ』と改め十二歳で家督を継いだ。筆頭家老深水宗芳と軍七の父犬童休矣たちはまたしても若い城主を守らなければならなくなつた。

先に亡くなつた豪将甲斐宗運の息子・親秀は気性も荒く、親の言葉でさえも守らない性格だつた。盟友義陽公が討ち死にした折も、死守すべき自城を開け放ち戦場に現れ、その死を悼むどころか、なぜ敵將義陽の首をむさむざと返したのかと詰めるほどで、即ち、『薩摩とは争いを避けるように、特に花山城は絶対攻めるな』という宗運の遺言を守らず、ついにはこの夏に八代を攻めるという噂が流れた。薩摩からの知らせを受けた宗芳は息子の摂津介や休矣、その子軍七ほか球磨の重鎮らとともに『主君の敵討ち』と称し八代へと軍を進めた。まだ川下りが出来なかつたこの頃は、球磨の渡り瀬から先は脊梁の尾根伝いに行く道しかなかった。そのため八代へは片道急いでも軽く三日はかかるほどの時間を要した。

暫くは島津軍と共に八代の警護にあたっていたが、半月ほど何の動きもないことから、相良軍は数人の見張りを残して一端球磨へ引き揚げる事にした。相良軍が球磨へ引き揚げたことを知つてか、甲斐親秀はあらうことが因縁の響野原のすぐ側に島津が建てた花山城を攻めて来た。ここは四方見晴らしも良く、敵の侵

入は不可能に近いと言われていたが、実はこれも島津の策略だったのである。花山城はわずかの兵しか配備しておらず、かたや甲斐軍は御船、堅志田、隈庄すべての兵力で攻めたてたのだ。

「大事にございます。ただ今花山城からの使いで、花山はすでに落城との事にございます」

近習は声を震わせながら八代城にいた島津兵庫守忠平に伝えた。

「なに、花山城が敵襲に遇っただと。すぐに早馬をもつて御屋形様にお伝え申せ」

鹿兒島にある島津の本拠地はあまり大きくもなく平屋作りになっていた。島津の教えである『人を以つて城となす』が優先されたのだ。そのなかの広間で伊集院忠棟とともに知らせを受けると、

「甲斐親秀め、まこと愚かな奴よ。えらく易々と罠にはまりおったな、この薩摩を相手に戦を仕掛けて来よとは。よしつ、これで大義名分は揃った」

それを後ろで聞いていた義久の近習は、またもやこれが仕掛けられた罠であることを知らされた。

すぐに軍議が開かれ、主だった薩摩の連中が集まった。薩摩はすでに大隅、日向を治め、皆が集まるのに少なくとも三日はかかった。そしてそこに第二報が届き、すでに花山城は

死んだ児の齢を数える

鶴上寛治

あの児が亡くなって六十年、生きておれば還暦か！あの時、ああしておれば死にはしなかったのではないか。

六十年、その思いが途切れることはない。口には出さないが、その後生まれた弟妹たちも、なんとなくそれは感じてくれているようで、私たちの金婚祝の席にはその児のために陰膳を用意してくれていた。おもわず涙があふれた。

その児が亡くなって間もないころ、「また次ができますよ。もっと大きくなって物心がつき、可愛さが深まる前だよかったのじゃないの」ととんでもない慰めの言葉をかけてくださる方がいた。「何を言う」とその時は腹が立ったが、その方は実際にもっと大きくなったお子様を亡くされた経験をお持ちの方だった。

あの児が元気に育っていたら三番目・四番目の子は生まれなかったろう。「子どもは四人いる」と、ある友人に語ったところ、即座に「そりや多過ぎ」と言われたことがあるが、

新納武蔵忠元が奪い返し、島津軍とともに警護していた相良兵の犬童刑部、田浦久四郎ほか数人が討ち死にしたことも伝えられた。

ことはすぐに球磨にも知らせられ、いよいよ阿蘇高森攻め、大友攻めが始まる事を暗示していた。

深水宗芳は犬童休矣を城近くの館に呼ぶと、

「ついに甲斐の愚か息子が花山を攻めたそうじゃ。まさに島津の思う壺よ。亡くなられた宗運殿が一番案じておられた筈じゃがこれで甲斐家も終わりじやろうて。休矣殿、隠居を決め込むにはまだ暫くかかりますぞ」

「ご家老、拙者すでに人道となっておりますれば命など惜しくもありませぬ。それより此度は先君の誠の敵討ち、亡き殿の弔い合戦にございまするな」

「あの響野原の一戦では先君をはじめ多くの友や家臣を亡くした。ここに残る者は奇しくもあの戦いには参戦できずに終わったが、此度は皆して大いに戦かおうぞ。それにしても島津は我が軍にどんな要求をするかよいう」

「島津のこれまでの攻め方を思えば、また我が軍が先陣を切るのでございますうな」

【やまぐち・けいじ／人吉市】

どの子も何物にも替えがたい素晴らしい宝物だ、と言いつきたい。

しかし、その後は子どもは生まれていない。生まれないうようにしたからだ。お手をわずらわせた瀬戸致行先生曰く、「もう人殺しはしたくありません」。ウーン。胎児であろうと、健康な大人であろうと、ボケ老人だろうと、程度の強い障がい者であろうと、人は皆尊いもの、と思いがら（苦しみながら）中絶の仕事をしておられ、そのたびに「人殺しはもう…」という良心にさいなまれておられたのだらうと、申し訳なく思う次第。人間だれも、本人の気づかぬまま無意識に誰かの寿命を縮めるようなことをしているのではあるまいか。ということ、ここは神様にお許しを乞うことにしよう。優生保護法という人間が勝手に作った法律では許されても、神は…自己の良心は…。この件について、ローマ教皇はどうおっしゃるだろうか、聞いてみたい。

あの児の親（私たち）、兄弟たちが世を去った後、この世の誰からも思い出してもらったこともなく、寂しい思いをすることになるあの児。あとは仏様の御胸・御手にゆだねるしかない。よろしくお願いいたします。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

字図で見る球磨の地名 ③⑥ 上村重次

朴ノ木 (ホウノキ)

— 多良木町黒肥地 —

前回、標木は中世の境界用語である勝示にちなむ勝木(ほうき)のこ



と書いた。多良木町黒肥地字朴ノ木(ホウノキ)、北朴ノ木(キタホウノキ)は勝示地名の変化形と考えられる。勝木に助詞のノが入って、同じ音の朴ノ木が当てられた、と推定するのである。

植物の朴ノ木はモクレン科の落葉喬木。古名ホガシハノキ、略してホガシハと呼ばれ、樹皮は風邪薬(重皮、ホホ)になり、材は印版や器具に加工された。球磨地区の山林には朴ノ木が多く、雑木として伐採された。語源は大葉柏(オホバカシワ)の約とも言われる。『和名抄』には「厚朴、厚木、保保加之波乃木」とあり、『萬葉集』巻十九・4204には次のように詠まれている。

【おこわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

わがせこが ささぎてもてる ほほがしは
吾勢故我 捧而持流 保宝我之婆
あたかも にるか あをききぬがさ
安多可毛似可 青蓋

古代から薬用、有用樹として重宝がられてきた朴ノ木であるから、朴ノ木群生地や大木にちなんで朴ノ木という地名が生じた、とするのが普通である。しかし、このシリーズでは動植物のついた地名は借字に過ぎず、その動植物とは関係がない、という立場をとっている。朴ノ木も例外扱いではない。

球磨地区の朴地名(字名)は黒肥地の他に人吉市西間上町字朴ヌ木(ボクヌキ、現行字名は朴免木Ⅱボ

クメキ)、錦町西字朴(フウノキ)、球磨村渡字朴木野(フウギノ)がある。いずれも現行の大字界(ムラ境)から離れた所に位置するが、球磨地区のムラは古い時代に統廃合されているため、現在の町村界、大字界では境界地名の立証ができない。

黒肥地字朴ノ木を例にとれば、ここは旧黒肥地村の中央部に位置する。黒肥地村は延宝四年(1676)に多良木村から分村したことになっているが、『球磨郡神社記』(元禄十二年—1699)には是居村・小塚村・小園村・脇村などの小村があったことが記されている。また寛元元年(1243)の関東下知状(相良家文書)には「多良木内 古多良木・竹脇・伊久佐上・東光寺、以上四箇村事」とあって、黒肥地は幾つかのムラに分かれていたことが知られる。

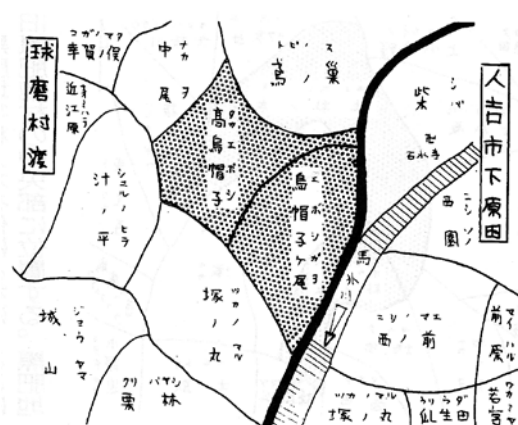
「東光寺村」というのは現在の字東光寺(トヲコウジ)、字前東光寺(マイトヲコウジ)付近のムラだったと考えられる。字東光寺の西側は字大塚(ヲツツカ)、字熊ノ山(クマノヤマ)を経て字朴ノ木となる。大塚は「小塚村」の遺称かもしれないし境界界の可能性もある。

なお境界区域をホノギと呼ぶ地域があるが、その語源は心おぼえのしるし(風記)らしい。朴ノ木地名はこのホノギからの転化も考えられるが風記も勝木も意味は同じである。

高烏帽子 (タカエボシ)

— 球磨村渡 —

人吉市下原田町、石水寺の近くに球磨村渡字高烏帽子と字烏帽子ケ尾(エボシガヲ)がある。人吉市と球



磨村の境界・馬氷川に面しているとこから、この烏帽子地名は境界に關してのネーミングと察しはつくものの、何故に境域の接点が烏帽子と呼ばれるのだろう。

帽子は頭巾(ずきん)をはじめ布で作ったかぶりものの総称であった。日本では古墳時代の出土品にかぶり



うさぎ…
げっかん・ぎびょう

—新型コロナウイルスによる肺炎、世界的に流行—

中国を発端に韓国、イラン、イタリアなどで大規模な感染が確認され、日本でも市中感染とみられる例が相次ぐ。一日も早い終息を願っています。

外来語から学ぶ英単語 (48) …… 藤原 宏

コック・クック・クッカー・クッキング・キッチン
kok cook cooker cooking kitchen

ラテン語「coquere (コクエレ)、煮る」を語源とする同根語です。「kok (コック)、料理人」はオランダ語で、英語では **cook** (クック) となります。コック長は「a head cook」といいますが、一般的にはフランス語の **chef** (シェフ) の方が好まれるようです。

cook は動詞として「料理する」意でも使いますが、この場合は「煮る・焼く・油で揚げる」など加熱することを意味します。

cooker (クッカー) は「**cook** するもの」即ち「調理道具・炊飯器・こんろ・レンジ」などのことです。

cooking (クッキング) は「**cook** すること」即ち「料理(法)・調理」のことで、「**cooking oil** (オイル)、料理油」、「**cooking school** (スクール)、料理学校」のように使います。

しかし、料理法には **cooking** よりフランス語の **cuisine** (クイジーン) の方が好んで使われるようです。この語には台所の意もあり、英語の「**kitchen** (キッチン)、台所」と同根ですが、なぜか **kitchen** には料理法の意はありません。

(415)

ものがあるが、古代に中国文化が取り入れられ冠位十二階などの制度もでき、公式の着用品として定着した。この帽子と境界標の勝示(ほうじ)は共に漢語そのままが使われ、語音も共通している。勝示の語がすたれる過程で、境界勝示の当て字として帽子が用字された、と考えられる。ところが、この推理には大きな難点が一つある。それは帽子地名の大半は「烏帽子」という点である。『日本地名索引』でみると勝示地名四件、帽子地名四件に対し、烏帽子地名一二件とけた違いの数である。熊本県内の市町村字名では帽子地名二二件、烏帽子地名三〇件であり、球磨地区を見ても帽子地名は一件だが烏帽子地名は七件ある。

勝示が帽子に当て字されたという説明は納得できるとしても、さらに

帽子が烏帽子に変わるカラクリの解明がなければ、勝示↓帽子の転化説は定説として通用しにくくなる。地図や字図で見ると帽子地名も烏帽子地名も殆どが境界地にある。いわゆる状況証拠はそろっているにもかかわらず、用語変化の過程が説明できないために「烏帽子地名は境界地名である」と断定できないのである。

もどかしいが、どうしようもない。こういう場合は原点に戻って考えなおすことである。現場百回の苦労は報われるかもしれぬ。そもそも烏帽子とはなにか。烏は和訓カラス、漢音ウ、唐音エ。烏鸞は黒と白、即ち囲碁の異名である。烏帽子は黒帽子のこと。地名用語としては黒勝示になり得るし、黒はアゼクロのクロ(畔)と解すれば、烏帽子は境(クロ)のシルシ(勝示)ということになる。こ

れで一件落着。「烏帽子地名は境界地名」と胸を張って言えるわけである。

球磨村渡の場合、高烏帽子の「高」が気になるものの、これは地形の高低表現ではなくて、禄高の「高」のように数量・区切の表現である。地名用語としての高烏帽子は区切表示の意と考えられる。高烏帽子の北側は字汁ノ平(シユルノヒラ)で、シユルはこの連載③(第3号)の「塩利(シホリ)」で述べた枝折のことである。高烏帽子の北側の宇塚ノ丸(ツカノマル)は人吉市側の宇塚ノ丸と対応していて、境界塚にちなむ地名とみられる。このように隣接地名からも、高烏帽子は勝示地名の変化形の二つと判断される。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

球磨弁の接頭・接尾語 ③

雛節句

前田一洋



わらびとぜんまい

遅霜に見舞われながらも時期が来れば、いつもの所にちゃんと生えて来てくれる蔵くらや薇わづの、なんという律儀なことか。早速、たかてこをヒツかるうて採りに行こう。時には先客からツン折られていることもあるが、広い野原にはまだどこにでも生えているから安心。

ただどちらかと云えば薇の方が一足お先という感じで、やや湿っぽい所を好むようだし、やがて胞子を飛ばすオトコ薇は硬いので「無視」すべし。蔵は穂のところを揉んで湯搔く、またそのまま塩漬けにしても色鮮やか美しい。薇は灰汁で湯掻き乾燥させ保存しておく、煮染めの材料として年中使われる。

「もう薇ドモが生いゝるかもしれんばい、明日どまちよこと妙見野へんに

チャツチャツチャツと、まことに下手クソであつた笹鳴きの鶯も、いつしか「ほく法華経」などと、説教つきで歌うようになった。梅や桃ばかりか桜までもが、その美を競っている。そういえば近くの学校からは、『仰げば尊し』や『蛍の光』の練習が。やがて『サクラサク』や『ツボミモミエ』の電報も。

極端な少子化の中にあつて、雛節句を迎える子供はまさに「絶滅危惧種」である。そこでジイちゃん

バアちゃんも、チイ減つた年金の中からセー一杯の祝いをしてくれるのだ。その恩をウチ忘れたなら、ばちキツかぶる。

「どーら、パパしゃんが膝にオツちーんしてんない。おーどましらんいつのはじゃかぼんこ（大きく）キヤしなつてじゃがア。ほしてパパしゃんに似て、紅太郎さんのごと器量良しじゃらよ」。この時ママに似てと言えはよかつたのに、つつい本音がツキ出て。

行たてみゅうかじやら、弁当ドンして「向かいの姉ジョにも云うてみればよか、いんま喜びやつが」「姉しゃんも、こようちや病者ゴロじゃつたいどん、年寄イつけ達者うシならいたでな」

どーぜんとだらん芽

「炭窯よば見きや行たいば、どーぜん（山うど）とだらん芽のえろうあつたで、掘つたりヒツきやーだりして、えろう（沢山）持つて来たばい。てんぴらなつとして食わんな」

「おどましらん、このよんナマダくしや。どーぜん掘るばかいなidon、いげの生いゝとるだらん芽採つた、やをいかんでな。どこそこヒツかかじられたりツンにイたりして」

「そいどん、どーぜんやらだらん芽は採つた楽しみじゃつでな、人のオツ採らんうちイ」

「そーらそぎやじやろいどん、お

どんもどーぜん掘りおつて、サデこけた事もあつたとばい。それしたつちや時のもんな嬉しい」

「山いか」と言われるどーぜんは、薄く切つて冷たい水に晒しておくと、まるで烏賊いかの刺身のようになる。また、たらの芽は天麩羅が最高なのだが、炭火で炙り、醤油で食べるのも仲々おつなものである。いづれにしろ山菜の王者であり、ツボさえ知つていればへへへへ。

彼岸のさしときめ

ひゃ（早くも）明日はお彼岸のさし（入り）じゃらよ。二十日がおちゅんち（中日）で、さめ（明け）が二十三日で書アてあるばい、暦イ。今年どまかみやげへん（上球磨方面）のお観音さんみやり（参り）ども

してみゅうかじやら」「思いきやウツ立つたが吉日ちゅうてある、早速明日からみやつてされこかじやら。まだ足もキヤなえちやおらんで、湯前駅まで汽車で行たて、そいから猫寺、龍泉寺、普門寺、上里の町観音ちゅうふやで」

「なましん、いのまい（湯前）か湯山へんの温泉センターに泊まつて、あさつては宝陀寺から中山、宮原、秋時観音ちゅうふやでウチ巡つて、免田から汽車で戻つて来つたい」

何という立派な心がけであることか。車でささきーつと、いくつもの観音さんをキヤ巡るよりも、その道中を含めきつと大きなご利益があるに違いない。腰がツン曲がる前に、ぜひこつした我が足での巡拝をしてみたい。

【まえた・かずひろ／人吉市】

問1 次の小説に登場する江戸時代の藩は実在するか。正しいときには○を、誤っているときには×をつけよ。(例:山口啓二「小説 相良清兵衛」(人吉藩)○)

- ① 千野隆司『おれは一万石』(双葉文庫)(高岡藩)
- ② 畠中恵『わが殿 上下』(文芸春秋)(大野藩)
- ③ 土橋章宏『!超高速参勤交代』(講談社)(湯長谷藩)
- ④ 浅田次郎『大名倒産 上下』(文芸春秋)(壬生山藩)
- ⑤ 藤沢周平『たそがれ清兵衛』(新潮社)(海坂藩)

問2 以下の文章は正しいか、正しいときは○を、誤っているときは×をつけよ

(例:新型コロナウイルス問題で、トイレトペーパーの品薄状態が発生した。○)

- ① フランスの経済学者・トマ・ピケティの定式「 $r > g$ 」は、経済成長より資産収入が多いとき、収入の「格差」が発生する旨の定式である。
- ② バックウォーターは、一般に、本流の流れが壁になって支流の流れを逆流させる現象のことである。
- ③ 退職金は、裁判所の判例によれば、給与の後払いである。
- ④ 球磨村の村長選挙は、前回に続いて今回も、無投票と予想されている。
- ⑤ 「道の駅」を災害時の避難場所にする例が増えている。
- ⑥ 新型コロナウイルスは南極を除くすべての大陸で感染が発生した。
- ⑦ 裁判所によれば、嫡出子否認の訴えは夫(元夫)だけができる。
- ⑧ 国会法に基づき、大臣は育児休暇を取得する権利を有する。
- ⑨ アラブ首長国連邦の首都はドバイである。
- ⑩ IR は「インターナショナル・リゾート」の略語である。

問3 球磨川流域の人物で熊本県文化功労者として熊本県教育委員会より顕彰された人の名前を10名あげよ(例:渋谷敦)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()

- ⑤ ()
- ⑥ ()
- ⑦ ()
- ⑧ ()
- ⑨ ()
- ⑩ ()

問4 以下のナンプレ問題を解け(空白マスに適切な数字をいれよ)

		5						
	4		9				3	7
	9			6	2		7	
1			7	2		4		6
		2	5		4	9		
		3		9	8			5
			2	7		3	1	
3					1		6	
	1					2		

問5 国の省庁名を書け(例:外務省)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()
- ⑥ ()
- ⑦ ()
- ⑧ ()
- ⑨ ()
- ⑩ ()

※答え合わせは次号でおこないます
前号の答え合わせは77頁で

前号【くまがわ学習塾③の答え】

問1 以下の括弧を埋めよ (例: ドラゴン (トレイルラン))

- ① 1月は睦月、2月は(如月)、3月は弥生、4月は卯月、5月は皐月、6月は(水無月)という。★以下、7月(文月)、8月(葉月)、9月(長月)、10月(神無月)、11月(霜月)、12月(師走)。

〈解説〉

- ①睦月(むつき)。「始まる・元になる月」である「元月(もとつき)」が転じて「むつき」になったという説、稲の実を水に浸す月である「実月(むつき)」が転じたという説などある。旧暦「睦月」は、1月下旬から3月初旬にあたる。
- ②如月(きさらぎ)。衣更着・更衣(きさらぎ)が語源ともいわれる。旧暦では、3月初旬から4月下旬で、衣の替えの時期である。
- ③弥生(やよい)。草木の芽吹く「いやおい」に由来。旧暦3月にあたる。
- ④卯月(うづき、うつき)。卯の花から転じたとされる。旧暦4月にあたる。

- ②八代市は、旧八代市、旧坂本村、旧泉村、旧東陽村、旧(鏡町)、旧(千丁町)が合併してできた自治体である

〈解説〉

- ① 1940年(昭和15)9月1日 市制施行(八代郡八代町、太田郷町、植柳村、松高村)
- ② 1943年(昭和18)9月1日 八代郡郡築村編入
- ③ 1950年(昭和25)7月1日 八代郡郡築村分離
- ④ 1954年(昭和29)4月1日 八代郡八千把村、高田村、金剛村編入
- ⑤ 1954年(昭和29)7月1日 八代郡郡築村再編入
- ⑥ 1955年(昭和30)4月1日 八代郡宮地村、葦北郡日奈久町編入
- ⑦ 1956年(昭和31)4月1日 八代郡昭和村編入
- ⑧ 1957年(昭和32)月1日 葦北郡二見村編入
- ⑨ 1961年(昭和36)3月1日 八代郡龍峯村編入
- ⑩ 2005年(平成17年)8月1日 上記設問自治体の新設合併

- ③野球選手川上哲治は、熊本工業高校を卒業し、(東京読売巨人軍)で活躍した。背番号は(16)であった

〈解説〉

入団時の球団名は「東京巨人軍」。「読売ジャイアンツ」は球団の愛称名。選手時代の背番号は「16」。監督時代、一時、「77」を利用した。川上選手の経歴については、誕生時点、幼児期の状況についての情報がひどく少ない。その理由は明治41年6月1日の肥薩線川線の開通にかかわっているが、それ以上の事情は省略する。

- ④祖父、父などの後を継ぐ「世襲議員」が増えている。たとえば、小泉進次郎環境大臣、(安倍晋三首相)、(麻生太郎副総理)、(石破茂元自民党幹事長)など

〈解説〉

①初出は不明。②「世襲政治家」と呼ばれるときもある。③アメリカのブッシュ大統領(親子)、北朝鮮のキム一族のように日本以外でもみられる。④日本の場合、祖父・父などの地盤(地縁)、看板(知名度)、カバン(財産)など引継ぎ議員になる者を指す。⑤近代社会では、血縁でなく、国民(人民)の選挙によって選出された議員(選良)が政治を担うことを原則にし、知名度などは重要ではないが、じっさいには、それが議員(国会議員)に当選するうえで有効に機能し、世襲議員を生み出しやすくしている。場合によっては、数代にわたって議員を輩出する家系もある。政治家一族が別の政治家一族、あるいは資本家と婚姻を通じてむすびつき閥閥をつくりあげる例もある。一部の者は、そうした閥閥一族を「名家」と呼ぶが、政治家の血筋は政治能力を遺伝させるものでなく不適切な表現である。⑥世襲議員の一族は、政治を家業にする傾向(職業としての政治家を生み出す傾向)がみられるが、それでも、世襲議員を選出するのは有権者(国民)であって、国民主権の原則を論理的に逸脱しているわけではない。

- ⑤夏目漱石は、『吾輩は猫である』、『虞美人草』、『草枕』、『二百十日』、『野分』などの作品を書いた

〈解説〉

漱石は旧制第五高等学校(現在の熊本大学)の教授をつとめていた。そのため熊本時代を意識した作品が数多くある。特に、熊本時代に多くの俳句をつくった。本誌連載中の「柳人があじわう漱石俳句」をぜひ読んでいただきたい。前号は「赤酒」に注目した俳句を紹介するとともに、『三四郎』にも赤酒を登場させていると指摘してあった。該当分は、以下のとおり。

「三四郎は熊本で赤酒ばかり飲んでた。赤酒というのは、下等な酒である。熊本の学生はみんな赤酒を飲む。それが当然と心得ている。たまたま飲食店へ上がれば牛肉屋である。その牛肉屋の牛(ぎゅう)が馬肉かもしれないという嫌疑がある。学生は皿に盛った肉を手づかみにして、座敷の壁へたたきつける。落ちれば牛肉で、ひっつけば馬肉だという。まるで呪(まじない)みたいな事をしてた。その三四郎にとって、こういう紳士的な学生親睦会は珍しい。喜んでナイフとフォークを動かしていた。そのあいだにはビールをさかんに飲んだ。

「学生集会所の料理はまずいですね」と三四郎の隣にすわった男が話しかけた。この男は頭を坊主に刈って、金縁の眼鏡をかけたおとなしい学生であった。

「そうですね」と三四郎は生返事をした。相手が与次郎なら、ぼくのようななか者には非常にうまいと正直なところをいうはずであったが、その正直がかえって皮肉に聞こえると悪いと思ってやめにした。するとその男が、

「君はどこ的高等学校ですか」と聞きだした。

「熊本です」

「熊本ですか。熊本にはぼくの従弟もいたが、ずいぶんひどい所だそうですね」「野蠻な所です」

インフォメーション

3月11日（水）

▽コレクターが集めた着物達「アトリエポットプリー」（15日、ひとよし森のホール）

3月14日（土）

▽SL人吉運行開始

3月17日（火）

▽風景を縫うキルディングアート「米倉健史展」（22日、ひとよし森のホール）

▽冬季特別展「お姫さまの婚礼道具」（22日、八代市立博物館未来の森ミュージアム）

3月20日（金）

▽相良三十三観音めぐり「春の三斎開帳」（郡市35札所開帳のみ接待は自粛）

3月22日（日）

▽熊本県知事選挙 投・開票

▽球磨村長選挙 投・開票

※新型コロナウイルス感染防止のため変更になる場合があります。

問2 空白のマス目に適切な数字を入れて以下のナンプレ問題を完成させよ

7	6	5	9	4	8	1	3	2
4	1	8	3	5	2	6	9	7
3	2	9	7	1	6	8	4	5
8	7	1	2	6	9	4	5	3
6	5	4	1	3	7	2	8	9
2	9	3	5	8	4	7	6	1
1	8	2	4	9	5	3	7	6
9	4	7	6	2	3	5	1	8
5	3	6	8	7	1	9	2	4

問3 以下の文章は正しいか、正しいときは○を、誤っているときは×をつけよ

（例：「会計年度任用職員」は正規職員である。×）

- ① 昨年の全国の出生数は約91万人であった。 ○
- ② 肥薩線を走る観光列車「やませみかわせみ号」はダイヤ改定により減便される予定である。 ○
- ③ 八代市、人吉市の新市庁舎は全額、国の補助金で建設される。 ×
- ④ 熊本県知事の「被選挙権」は熊本県内に住所がある18歳以上の者が有する。 ○
- ⑤ 消費税引き上げにともなうプレミアム・商品券は全世界に毎年配布される。 ×
- ⑥ 「新型コロナウイルス」は香港で発生した。 ×
- ⑦ 元日産会長ゴーン被告人の国外出国は「逃亡罪」に該当する。 ×
- ⑧ 熊本地震で不通になっていた豊肥線は今年秋には開通する予定である。 ×
- ⑨ 総理大臣主催「桜を見る会」は廃止になった。 ×
- ⑩ 政府の統計によると、人口の首都圏集中に歯止めがかかった。 ×
- ⑪ 「道の駅」はすべての市町村にある。 ×
- ⑫ イギリスはEUの一員である。 ×
- ⑬ 西郷隆盛は靖国神社に祀られている。 ×
- ⑭ NHK大河ドラマ「麒麟が来る」の主人公は徳川家康である。 ×
- ⑮ 漱石『三四郎』は福岡県出身である。 ○

問4 「ネズミ」に関する諺・小話を書け（例：「ネズミの会議」）

- ① 田舎のネズミと都会のネズミ
- ② 大山鳴動して鼠一匹
- ③ 鼠が塩を引く
- ④ 鳴く猫は鼠捕らず
- ⑤ 窮鼠猫を囓む
- ⑥ 頭の黒い鼠
- ⑦ 鼠の恩返し
- ⑧ 鼠とイタチ
- ⑨ 家に鼠、国に盗人
- ⑩ 鼠にひかれる


TAKEDA Eye Clinic
たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア

（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
（居宅介護支援事業所）

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

編集後記

前山光則さんの著書『ていねいに生きて行くんだ』が第61回熊日文学賞を受賞したことは先月のこの欄でも紹介したが、今月号では前山さんの仕事や人柄について特集した(4頁)。16頁の『この指に止まれ』を読む』と併せて一読いただきたい。★つる詳子さんの「八竜山遊歩道を整備する若者達の話」(22頁)には「私たちが自然に親しむことが、自然資源の保護につながる」と書いてある。若者たちが整備したその登山道をいつかは歩いてみたいと思わせる。★新型コロナウイルスの感染拡大で、その余波が生活を直撃している。予防策としては、「保湿と加温が効果的で、異物の侵入を防ぐ鼻やのどの粘膜の潤いを保つ必要がある(水谷哲也東京農工大教授「ウイルス学」)」とのこと。やはりマスクの着用は効果があるらしいが、だからといって買い占めは言語道断。気が滅入る昨今ではあるが、明るく前向きに暮らしていこう。(ま)

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiroyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23・3759

火の国、水の国、
焼酎の国。
球磨焼酎
鐵月

鐵月酒造株式会社
info@hiroyoshi.co.jp
0966-23・3759

世界的な品評会で
賞状を頂きました。
Loi Amour
World Spirits
Competition
2019

本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスマ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木サンロード駅店) ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

匠の技

御膳醤油
(だし入り万能しょうゆ)
・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に
300ml 650円 (税抜)

◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)

◆納豆みそ 477円 (税抜)

人吉散策コース 九州初版 蔵めくら
みそ・しょうゆ蔵

丸鹿 醸造所
〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp

資本金 100万円
代表取締役 釜田 元
社長 釜田 元
副社長 釜田 元
社員 釜田 元